

第5回新城市産業自治振興協議会

平成28年6月1日（水）午後7時～午後9時05分
新城市消防防災センター2階 災害対策本部室

○事務局 こんばんは。定刻となりましたので、第5回産業自治振興協議会を始めさせていただきます。出席者は14名中8名で過半数の出席者となりました。これで会議が成立していることを報告させていただきます。

なお、本日、連絡があった4名の方がお休みされておりまして、農協の竹下さん、それと村松先生です。それと梅津さん、あと加藤さんがお休みということで御連絡いただいております。また、大石さんにつきましては少し遅れて見えるということで御連絡いただいておりますので、合わせて御報告させていただきます。

それでは、ここから協議会運営規則第3条の規定によりまして、議長の鈴木会長に進行をお任せいたします。

よろしく願いいたします。

○鈴木誠協議会長 それでは、きょうは第5回目になりましたけれども、新城市産業自治振興協議会を始めてまいりたいというふうに思います。

今日は皆さんのところにまた具体的な資料を用意していただきました。前日も事務局で、新城市が直面する生活課題とは一体何だろうかということを含めて、たたき台となる資料を用意してもらいましたが、今日はそれを、前回それを踏まえて、皆さんが随分と、さらにどのような課題があるのだろうかということを出し合ってくださいました。産業を興して取り組んでいく、その先には産業が地域をつくっていくというような見通しを立てて、これからその産業の振興をうたっていくこと、そのようないろいろな道筋を示していただけるようなコメントをたくさんいただきました。

それを踏まえて、きょうは最初にこれから行うことを改めてちょっと確認をしておきたいと思います。

そして、その確認のもとに、この中で行うべきことを、今日は資料をまた用意しました

ので、それを事務局から皆さんに紹介をしていただいて、そして主となるものは、それを踏まえて、また今日は人数が少ないですけれども、4・4と、それから事務局の皆さん、行政の皆さんも入って、それで2つのグループでまた議論を深めていきたいと思います。

特に今日は、前回の課題を、課題には何かあるかということをご皆さんから出していただきました。きょうは何をすべきなのかということなのですが、ただ、それもいたずらにいろいろなことを話し合っても百花繚乱状態になってしまいますので、今日はある程度フレーズを作っておきました。それが後で紹介されますビジョンとか、それから基本方針、戦略、そのあたりです。それを踏まえて、では、新城市では何をすべきなのかというところをきょうは皆さんに積極的にいろいろと意見を出していただこうと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは早速、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。

最初に報告事項を3点ほど用意されていますので、これを事務局から皆さんの方にお話をいただきます。

では、よろしく願いします。

○加藤商工政策課長 では、改めまして皆さん、こんばんは。

私からは、その報告事項の1番に書いてあることをお話しさせていただきたいと思います。

今まで、地域産業総合振興条例を、前回の委員、また今回の委員の中にも兼ねていらっしゃる方もいらっしゃるのですが、産業政策というものは、今までは国が定めたものに沿って、県からお話がおりてきて、その基盤に乗っかるような形で市が形を作って、通り一辺倒、全国どこでも同じようなことをやっていくというようなことをしていました。

そのようなことをしているうちに、この地域の中でお金が回らないだとか、人も出てい

ってしまうだとかという消滅可能性都市と言われるような話になっていく中で、やはり地域の産業を、その地域に合った物事を考えていかなければいけないだろうということで、外に人もお金も出ていかないような産業政策というものに取り組んでいかなければいけないのではないかとということで条例を定めました。

その条例を定めていく中でも、その審議の過程でつくり上げていくプロセスの中でも方向性というものが皆さんの意見の中から新城市の産業の問題点だとか、それから、総合的に進行していく方向性というものが導き出されて、地域産業総合振興条例というものを制定させていただいておるところです。

今回は、この産業自治振興協議会というものの、その条例の中に定めてあるので、皆さんに委員になっていただきまして、検討をして、協議を重ねていただきました。

先生からもお話がありましたように、産業的な課題だとか、産業自治としてどういうふうにしていくべきだとか、また、地域みずからが産業を育てていこうとかいうような課題というものが出てきているのではないかなと思ひ、きょう、ビジョンの素案というものと基本計画を策定するところの柱というものを皆さんに示させていただきたいと思っております。

それを進めるに当たりまして、いつまでにどのようなことをやっていかなければならないかというものを、このA4の横の紙、こちらをちょっと用意させていただいたのですが、平成28年2月からこの産業自治振興協議会というものを開催させていただいております。

本日、6月上旬というところになるのですが、会議に合わせてビジョンの素案、それと基本計画の素案というものを皆さんに提示して、これから協議していただきます。

ビジョンの素案に関しましては、7月末ぐらいまでに、言い方はおかしいですが、しっ

かりとした素案にさせていただきたいと思っておりますし、また、基本計画のほうは10月上旬ぐらいまでにしっかりした素案の基本計画というものをつくりたいと考えております。

なぜこの時期にというと、まず、今までの中でも課題として出させていただいたものを平成29年度に早速、反映させられるものは反映させるように、事業として挙げていこうというふうに思っておりますので、皆さんの挙げていただいたもので、これは早くやるべきだというのは、ここで事業化していくことを頭に入れていきたいということでこの時期を定めてあります。

ただ、そこから先も皆さんには協議をさせていただいて、2月のところ、4段目にあります答申というもののなのですが、皆さんに基本計画の答申というものを出示していただこうと計画しております。

3月には、その答申に基づきましてビジョンと基本計画をつくり上げます。

ただ、ここで終わりではなくて、まだこれは10月以降も検討して行って、答申されて計画が出来ていっても、その後も事業化するもの、必要なものがあれば事業化していきますし、さらには検討が必要なものは検討して、事業にして、よりよい新城市にしていきたいと思っております。

目指すところは人口増ということをうちの課の中でも話をしておりますが、とにかく産業を盛り上げて、地域を盛り上げて、人口増を目指そうと思つてこの協議会は開催させていただいておりますので、ぜひ皆さんも協議いただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それでは、続いてビジョンの素案を説明させていただきますと思ひます。

○白井副課長兼商工政策係長 それでは、ビジョンの素案を説明させていただきます。

白井と申します。どうぞよろしくお願ひい

たします。

今回、ビジョンの素案の説明をさせていただくのですが、私は第3回の拡大協議会の講演会並びに第4回の協議会に出席させていただいて、また、講演を聞かせていただいた中で皆さんに書いていただいたアンケート並びに第4回の各グループでの皆さんの意見をまとめさせていただいて、今回、またビジョンの流れを作ってきましたので、それを踏まえた上で作らせていただいたということをまず御連絡させていただきます。

それで、この振興ビジョンでございますけれども、去年の12月に議決、施行されました新城市地域産業総合振興条例に基づきまして、市民、これは「ひと」と読むのですけれども、市民（ひと）・事業者・市がそれぞれの役割を果たすとともに、協働することで魅力ある地域を創造する、地域、新城市を創造する産業自治の基本的な考え方を示していきましょうというものでございます。

第3回協議会のアンケート並びに第4回の意見の中で、産業的な課題は何でしょうかということで皆さんに挙げていただきました。その課題を3つ挙げさせていただきます、ビジョンの素案のほうに進んでいきたいなというふうに思っております。

まず、課題の1番目でございます。

人材の活躍機会の損失ということでありまして、こちらは第3回の協議会で、第4回の意見で、若者や女性の方が市内に残らずに市外に出ていってしまう、市内で活躍する機会を失っているということがまず課題として挙げられるのではないかとこのように思います。

どうしても若者が高校卒業後、これは企業説明会の折にアンケートをとりますと、高校卒業後、実家から通って働きたいという反面、市外に就職してしまうという傾向がある。また、企業側も市内の求人をするのですけれども、どうしても市外のほうに流出してしまう

という傾向がある。また、市外の大学へ進学した若い方たちは、そのまま就職して戻ってこないということ。また、女性の方は、市内に製造業の会社が多いのですけれども、どうしても男性向きの求人が多いものですから、そちらのほうには余り、女性の方の求人がどうしても少なくなってしまう。また、結婚や出産で新城市を離れてしまう現実があるということでございます。それを、まず第一の課題として挙げさせていただきます。

続きまして、課題2でございます。

簡単に書いてありますけれども、「稼ぐ力」の不足でございます。新城・鳳来・作手の各地区には、豊富な地域資源の強みや魅力がいっぱいあるのですけれども、それを生かし切れていなくて、稼いでいないということが挙げられます。新城市でいいますと商工業、製造業、鳳来でいいますと観光業、林業、作手でいいますと農業や林業、また、全体でいいますと自然や、具体的に言いますと癒やしのスポットとか魅力ある資源がたくさんあるのでございますが、それをうまく生かし切れていないということでございます。この地域資源や強みをさらに掘り起こして、真の「稼ぐ力」をつける必要があるということでございます。

続きまして、3番目でございます。

こちらには、個人所得の市外流出と書いてあるのですが、市内とか市外で、市民の方が所得を得るわけでございますけれども、市外で消費活動が多くなって、どうしても市内でお金が循環しないというケースが多くなっておりまして、市内のお店が閉店に追い込まれてしまって、どうしても生活が不便で買い物どうしても近くでできないという悪循環に陥っております。

やはり地元消費を地元産業でということ、地産地消をきちんと進めて、地域の中でお金が回る、そういった経済をしっかりとつくる必要があります。

そこで、産業面での、ざっと3つ挙げさせていただいたのですけれども、そちらの課題を解決して魅力ある新都市をつかって、次の世代へバトンをつなげていかななくてはけません。

産業面から自治基本条例が定める「次の世代にリレーができるまちづくり」を確実に進めていく、それには市民や事業者、行政の危機意識を共有し、協働し合って、地域資源や強みを有効かつ大胆に活用しまして、産官学民金の連携を円滑にしまして、産業自治社会の構築を進めていくということが必要となります。

そこでなのでございますが、新都市の地域産業の目指す姿、目標を、「市民（ひと）が育て、共に地域をつくる」という大きな目標を定め、ビジョンとしまして、今後の基本計画、もう少し細かな基本計画を展開したいと思えます。

というところがビジョンまでの説明でございます。

3つの課題、そして目指すべきまちづくりの象徴、そしてビジョンのコンセプトをざっと説明させていただきました。

こちらはあくまでも素案でございます。皆さんの御意見等々でいろいろお話をさせていただきまして、具体的なビジョンとしていただきたいというふうに思えます。事務局としては、こういったコンセプトで進めてまいりたいということでお示ししたいと思えました。

私からはビジョンの説明として以上でございます。

ありがとうございました。

○鈴木誠協議会長 では、引き続き。

○西田商工政策課主任 はい。引き続き、産業自治基本計画の素案について西田から説明させていただきます。

私もパワーポイントに沿って説明させていただきますので、ちょっとこちらのほうで失礼します。資料はビジョンの素案と一緒につ

いておりますので、そちらを引き続きごらんください。

では、座って失礼します。

まず、新都市では、「しんしろ産業自治振興ビジョン」に掲げた新都市の地域産業の目指す姿を実現するため、しんしろ産業自治基本計画を策定します。

この計画では、3つの基本方針と5つの戦略を定め、平成30年度末をめどに取り組み、成果を出すよう努めます。

こちらは基本計画のイメージです。ビジョンを実現するための基本方針に基づき戦略を立て、戦略に沿って市の施策を実施するという構造になっております。

基本計画の戦略の御説明の前に、まず、地域産業という言葉の定義づけをさせていただきます。

新都市内には、大企業から中小企業、個人事業者まで多様な事業者が日々活動しており、さまざまな分野において新都市民が抱える生活課題の改善解決に取り組む事業者が多数いらっしゃいます。また、市民やNPO、行政の取り組みを社会貢献活動を通じて積極的に支援する事業者もいらっしゃいます。

地域産業とは、地域と共生する産業と言いかえることができ、市民が直面する生活課題の改善解決とともに、市民の誰もが暮らし続けたいと願う社会づくりのために貢献を続ける産業の総称とさせていただきます。

それでは、基本方針の説明をさせていただきます。

新都市では、この地域産業の発見と支援、地域産業の創出、産業による地域づくり、この3本の方針に基づいて強化します。内容はパワーポイントのとおりです。

次に戦略ですが、このような5つの戦略に定めさせていただきます。そのうち、地域内での経済循環、地域の人口減少を防ぐには、地域全体の所得の向上と雇用の確保が不可欠です。市民の消費を市内の地域産業で賄うな

ど、地域内で商品とお金を循環する地域経済をつくります。そうすることで、地域内で持続的に所得と雇用が生み出されます。

その2、地域産業の支援・育成。これまでのように国の中小企業・人材育成支援等への依存に軸足を置いた産業育成・支援の考え方を見直し、市民、事業者、専門家及び行政が協力連携し、地域産業を担う事業者や市民が求める課題、さらに社会が求める課題などを正確に把握し、それらの課題解決を通じて地域づくりに貢献する新商品・新技術の開発やコミュニティ・ビジネス、ソーシャル・ビジネスの起業や雇用の確保を支援します。その結果として、地域の多様な産業と融合した事業展開につなげ、地域内から「稼ぐ力」を育てます。

その3、人材育成・確保。地域産業の発展に貢献できる人材の育成や、U I J ターンの促進を関係機関と連携して取り組むことで、女性や若者と地域産業を担う事業者とのマッチングを促します。さらに女性や若者など新たな価値観や情報、スキルを持つ人たちと事業者との交流を通して、地域の宝、市民の誇りとなるような新商品・新サービス・新事業の創造に挑戦します。また、地域づくりを担う産業を興し、働く人材を育て、またそのための知識・情報・技術の習得を主体的に学ぶことを支援します。

その4、産業間連携です。新都市の多様な産業の総合的な発展を促進するために、商工農林業間の交流や連携に加えて、観光、医療、福祉・介護、防災、ICT、教育など異分野との有機的な交流連携を支援します。それによって地域のさまざまな課題と向き合い、ビジネスチャンスとして捉え直し、事業に挑戦する地域産業全体のすそ野を広げるよう努めます。

最後になります。その5、地域連携。地域自治体を初めとしたさまざまなコミュニティづくりの場面で、地域が直面する生活課題を

市民みずからが立ち上がり、解決に向けて取り組むことを支援します。そのために必要なコミュニティ・ビジネスの立ち上げや新規事業への挑戦を、大学等の教育・研究機関や地域金融機関、周辺自治体との幅広い連携を通して促します。

さらに新城の魅力を海外友好都市などへ積極的に発信し、グローバルな視点から新城の地域産業の可能性を探ります。特に新城の地域資源に触れ、満足度の高い観光交流を求める海外からの来訪者を積極的に受け入れ交流し、国境を越えた地域連携とビジネスチャンスの開発に努めます。

最後に、こちらは5つの戦略に対する市の主要施策の一覧表です。今後の話し合いの参考にさせていただけたらと思います。

以上です。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

今、ちょっと急ぎ足で皆さんに紹介させていただきました。

白井さんが冒頭でお話しになったように、この間の3回目の帯広市の拡大協議会であるとか、それから前回の、どんな新都市の生活課題、あるいは産業課題があるのか、皆さんにここで率直にいろいろと話し合ってもらって、その内容を検討する機会を後日持ちました。

そうすると、やはり目指す方向というものや、それを一定程度は共有しておくことが大事だし、そして、目指す方向だけではなくて、その方向を実現していくためのある程度の骨格というものや、やはり作っておかなくてはいけないだろうと。大事なことはそういう骨格の部分は骨格の部分なのだけれども、中身というのは、これは行政が率先して行うべきことと、市民の皆さんがこれをすべきだというものや、これを具現化していくということが大事だろうと、そのようなことになった訳です。

それで今日、ここに今、紹介されたような目指すべき方向性としてのビジョンの素案と、

そして、そのビジョンの具現化に向けて取り組むべき事業の方針、あるいは考え方、そういったところを今日は整理してみました。

これからの時間、2つに分かれて少し議論をしていきたいと思っているのですが、1つは皆さんのグループの中で、こういう目指すべき方向というもの、ここに書かれた3つの課題を踏まえて、人が育ち、そしてともに地域をつくるというような、そういう大まかな方向でいいのか、もう少し別の表現に変えたほうがいいのか、そのあたりのところを議論していただきたいということが第一点です。

もう一つは、ちょうど資料の、今の西田さんが紹介してくれた基本計画、そこに3つの基本方針と5つの戦略があります。皆さんには、特にこの5つの戦略に則してどのような事業をこれから、特に来年、再来年に向けて積極的に新城市はやらなくはいけないかというところを御議論いただけたらと思います。

その参考にとということで、最後のところに主要施策一覧とあるのですが、これは来年度、もう既に行政、できれば今年から、そして来年に向けて行政が責任を持ってやり遂げていくという行政主導の事業については、こうやってこの5つの枠組みの中に落とし込んで、出してみました。でも、これはあくまでも行政が考えるものであって、これをやったからといってビジョンが実現できるわけではないし、そして課題が解決できるわけではないというふうに思っています。むしろ市民の皆さんが考えることとうまくつなぎ合わせていくことによってこの事業というものは、主要施策というものは効果をより発揮するだろうし、また、皆さんの考えるものもこういう行政のものとうまくマッチすることによって、より強い力を発揮できるのではないかなというふうに想像したりもします。

そのようなことで、この1から5の中に書かれた主要施策というものは、これは参考程

度にしていただいて、ずっとこれにとらわれないで皆さんもグループの中で率直に考えること、経済の循環を市内で行っていくにはどうしたらいいのか等々を含めて、こういう5つの枠組みの中で議論をいただきたいというふうに思います。

そのようなところが今日の課題になりますので、協力をお願いしたいと思います。

今日、この後ですけれども、ちょっとテーブルを2つ作りまして、また前回と同じように松本さんと佐藤さんに進行役を担ってもらいまして、皆さんが話しやすいように議論してもらおう。今日のこの資料、前回の皆さんの議論を踏まえて作りしましたので、その作った責任者である行政の事務局も皆さんのテーブルと一緒に入って、それで皆さんと同じような立場で議論に参加できるように直に議論させてください。私もあっちへ行ったりこっちへ行ったりして議論に参加しますので、協力をよろしくお願ひします。

そのような形で今日は進めてまいりたいと思います。1時間ほど議論をしていきたいと思いますが、大体そのようなところでよろしいでしょうか。

内容についての質問は、グループに分かれてからお互いに話し合っ問題解決したり、あるいは事務局の方に質問していただくというような形で進めていきたいと思ひます。

よろしいでしょうか。

では、御協力お願ひします。

では、松本さん、佐藤さん、済みませんけれども今日もよろしくお願ひします。

○事務局 では、グループ分けの方をお話したいと思ひます。

松本さんのグループは、河合さん、石田さん、大石さん。佐藤さんのグループは、天野さん、西紋さん、澤上さんということですのでよろしくお願ひいたします。

それでは、テーブルの方を移動させていただきまして、2班に分かれましてよろしくお

願いたします。

(松本班討論開始)

○松本吉生委員 では、よろしく願いたします。

前回、御一緒ですか。

○大石奈保委員 別でした。

○松本吉生委員 向こうにいらっしゃいましたね。

○大石奈保委員 はい。

○松本吉生委員 前回、我々のところでは、やはり目指すべき方向性がちょっとよくわからないというようなお話がありまして、やはり全体的な進むべき方向が分からないと、どのようなことをしていったらいいのかが分からないので、そこから決めるべきではないかみたいなのちょっとお話をさせていただいたので、恐らく、今回、1つ議論が進んで3つの基本方針と戦略が出て、さらにその戦略に基づいた諸施策ということが出てきているのかなというふうな形で思っています。

先ほど、話してしまいましたけれども、どうでしょう、基本方針、方向が合っているのかどうかということを議論してくださいというお話があって、地域産業の発見と支援、地域産業の創出、産業による地域づくりとありますので、要すれば、今まで知らなかったことをよく知って、その上で新しいことを作り出して、そうして地域づくりをしていくというこの3つの流れになるかと思うのですが。

どうぞございますでしょう、と言われてもなかなかだと思うのですけれども。

○河合恵元委員 課題に基づいて、その課題を何とかしようとしてこのビジョンがあるというふうに考えればいいですか。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 石田さん、何か御意見とか、展開も踏まえてなののですけれども。

○石田靖典委員 ちょっとこの課題1を見まして、人材の活躍機会の損失なのですからけれども、この若者とか女性が外に出ていくということはあるらしいのですけれども、逆に新城市の方へ呼び込むということも課題に加えた方がいいような気がしたということがあります。

正直なところ、高校を出て大学に進むということは、新城市に大学がないので、大学で外に出ていくことは仕方がないので、一度大学を出てしまうとまた新城市に戻ってくるかとなると、やはりなかなか難しいとは思っているので、この実家からの通勤を希望するというものがあるので、逆に言えば新城市から通勤するところに勤められる企業が多いということも考えられるので、その人を呼び込むということも必要かなということちょっと感じました。

○松本吉生委員 そうですね。戦略のところかというと、Uターン、Iターン、Jターンを促進しようということは呼び込むということも出てきますから、課題の方に入れて分かりやすくすることはそうかもしれませんね。出ていくだけではなくて。

どうでしょう、大石さん。

○河合恵元委員 今の課題でいくと、通勤希望があるけど市外へ就職してしまうよと、単純に新城市に企業が少ないのではないのと、だったら企業を増やせばいいじゃん。だから、その下もそうだよ。

それから、男性向き、女性向きというものは、その企業を増やせば、単純に全部企業を増やせばいいのではないのと、企業が来てくれるような環境づくりをする必要があるという話だと思います。

一番下は住宅地がないから新城市から離れてしまうのか、その辺をちょっと具体的に課題として、お嫁に行く方だったら市外に出てもしょうがないとか、でも、家を造るのだったら新城市に造ってもらうためにどうする

かとか考えればいいし、出産を機にという話で産婦人科がないから単純に出ていくのではないのと、では産婦人科を作ればいいじゃんみたいな、この課題に対しては単純に答えは出てくると思う。

いろいろな意見があると思うのですがけれども、例えば、課題2で言えば、魅力を生かし切れていないと、この魅力は市民の人がみんな分かっているのかということとそうでもなくて、やはり行政としてゾーニングする必要があると思うのです。それを明確にする。その地域の強さを表に出していくという、個々ではなかなかやっても、なかなかうまく伝わらない部分があるので、新城市とはこういうまちだよと、こういう強みがあるよということを伝えていく必要があるのかなと。これをゾーニングすればいいじゃんみたいな。

課題3でいくと、市外での消費活動が多い、でも、商店といった商売する側とすれば、やはり人口が、人が来てくれる立地のいいところで基本的には商売をするから、単純に新城市に人が少ないからユニクロも来ないのだろうかと、みたいな。

○松本吉生委員 この前。

○河合恵元委員 らしいですね。

○松本吉生委員 よく知っていますね。うわさというか、僕があれ、言っていましたっけ。

○河合恵元委員 ユニクロが来てくれるまちとはどういうまちかなと考えると、では人口が何万人いて何とか何とかとか。

○松本吉生委員 そうですね。もう全部あれは決まっていますので、彼らの中で。

○河合恵元委員 ということは、やはりそこでは魅力を感じていないから企業も来ない。では人口をどうやって、単純に、簡単に増える訳ではないけれども、どうやって人口を増やすのと。そうすると、住宅地がなかったり環境がよくなかったり、いろいろなことがあるのだろうね。

商店だっていいものがあれば来てくれるは

ずなのだけれども、そういう努力もしているのだろうけれどもなかなか評価されていないのかなと。

地産地消は当然必要だと思ったね。でも、そこを余り、では、この辺の商店の人がそれを本当に前面に出して商売をしているかといったらそうでもないし、その辺の協力体制というものが必要なのかなと思うけど。

単純に課題に対して、僕なりにはこうしたらいいじゃん、ああしたらいいじゃんと単発的な発想だけれども、そこを具体的にしていけばもっと分かりやすいなど。だからビジョンです、やはり。

○松本吉生委員 そういった意味ではあれですか、この基本方針とかやるべきことということでは余り間違いはなくて、ただその打つ手、主要施策としては分かりやすくもっとやっていった方がいいですよという、そういう話ですよ。

○河合恵元委員 うん。もっとキャッチフレーズ的なところの方が分かり易いのだけれど。

○松本吉生委員 なるほど。

○大石奈保委員 そうですね。基本方針、この図である基本方針というものは、多分、大筋さだろうなというところだと思うのですが、一番後ろのページの市の方で頑張っていきますというこの施策の部分でいうと、一つ一つ見ていてどこまで本当に、ということかなということが一番で、多分、どこの市でもこういうことは考えていると思うし、今までも新城市の方でもこういうことは考えられてきていると思うのですが、では、もうこの段階になったときにどれだけいい事業だねとなってくるかの問題なのではないのかなと思います。

○松本吉生委員 確かにそうですね。

○大石奈保委員 特にこの、私の場合だと、身近なところでは、中学生の職場体験とかが毎年必ず来ますので、見ている中では子供はそれで本当にと。

○松本吉生委員 なるほどね。

○大石奈保委員 何か本当にいい体験ができたねと思えるような事業になっているのかなど。例えば、この補助金が本当に必要としている人のところに使えるものになっているかどうかというところ。逆に言えば私たちが今こうやって話をしていることが活用される方のところに本当に補助金だったりとか、何か1つの事業だったりとかが本当に使えることだと実感してもらえらるようなものに作っていきけるか、そういうお話が展開していきけるかどうかというところかなと思うのですけれども。

○松本吉生委員 いや、実は僕も同じようにちょっと思って、この方向性とか戦略というのは、多分いいのだと思うのですけれども、この施策も恐らくまだとりあえず決まっていたり、これはできるかなみたいなところも挙げていただいただけですよ。

○事務局 ここに載っているものは、ほぼ形は変えても平成28年度で進めていこうというふうな腹づもりではおります。

いいのです、どんどん言ってもらって。変えてまいりますから。

○河合恵元委員 去年とか一昨年との違いは何かありましたか。発明クラブかな、多分。

○事務局 そうですね。これは立ち上げていきまして、物づくりというか、そういったものを小さいうちから頭をひねってもらってという、その機会を設けていこうと、これは教育委員会との共催という形になるのかなと思いますけれども、それを進めてまいります。

次の小中学生の企業見学というものは、これは2つ下の高校生のための企業説明会と、これも同じように、まだ小学生は厳しいかもしれませんが中学生の子に新城市の企業という、どういったものがあるのだということ企業の方々にちょっと集まっていたらいい、こういったことをやっていますよという、まず知ってもらおう機会というものを設け

てもいいのではないかということで企業見学という形で書かせていただきました。

○河合恵元委員 新たな取り組みですか。

○事務局 そうです。今までは高校生のための企業説明会というものは、これはずっと3月にやっております、そのところから家から通いたいという意見が結構多いということを伺ったということでございます。これをもうちょっと大きな形にしまして、企業数を増やしまして、それで集まっていたらいいPRしていただく、中学生・高校生に見ていただく、知る機会を設けていきたいというものでございます。

私が言ってしまうものですから、正直に言わせて、行政が言うものですからすごく堅い説明になってしまうので誠に申しわけないのですが、もうちょっとざっくりばらんにこうやって集まっていたらいい、見ていただく、知っていただくという、そういうコンセプトぐらいで考えています。そういった機会が大事だなど。そこの場でこういったものをつくっているのだという興味を持っていただく中学生のうちから、高校生はもちろん就職に直結するような形になってくるのかなというふうな考えで進めていきたいなというふうに思っております。

○松本吉生委員 済みません、議論がもしかしたらちょっと粒々になってしまうのかもしれないのですけれども、僕は銀行というか金融機関なので、このいろいろな利子補給制度とか目がいくのです。まさにこれはこのとおりやらなければいけないのですけれども、これは今、日銀がゼロ金利どころか今はマイナス金利にしました。でも資金需要は今も動いていませんという話と一緒に、お金を出してもみんなお金を借りないということは、やはり、例えばもうかると思わないから、新しい設備投資をしないから借りないという話ではないですか。個人であれば、家を本当は建てようかと思うのだけれども、給料が上がっ

ていくと思えば、では、ちょっと思い切って金利も安い家建てようかと思うのかもしれないのですけれども、単純に金利が下がったから設備投資をしようか、金利が下がったから家を買おうかという方は、今、実はほとんどいないのです。ですから、マイナス金利政策はちょっとうまくいっていないのではないかみたいところで今は議論がなっているのですけれども、それとこれはちょっと似ているところがあって、言い方は悪いのですけれどもいわゆるばらまきみたいな、お金をちょっと出すよとか補助金を出しますよみたいな。

○事務局 はっきり言いますが、補助金は全てばらまきというふうに思われがちですよ。

○松本吉生委員 ええ。

○事務局 それはいたし方ないかな。

○松本吉生委員 もしかしたら、考えてなければいけないことは、もうちょっと川上の施策なのかなと僕は思っています。例えば企業が設備投資をしたくなるような動きであったりとか、何か新しい投資をしたらちょっともうかるかもしれないとか、そういうことで言うと、例えば、なかなか難しいとは思いますが、本当に設備投資とか新しい工場を建てたいと思うような、工業団地とかありますけれどもちょっと高かったり、なかなか広さがどうのこうのあったりしますから、もっと柔軟にこの企業が投資できるような、今だと調整区域とかであって、なかなか建物が建てられないとか、いい土地はあるのだけれどもみたいな話をもしかしたら変えていくとか、家を建てたいのだけれども宅地ではないから建てられないとか、多分いっぱいあると思うのです。そういうものをもうちょっと川上に遡ってやることができたなら、先ほどのお話ではないのですけれども、何かもうちょっと動きが出てくるのかなというように思ったりもしています。

行政の縛りで法律を変えなければいけないとか、そういうものをいろいろ変えていかなければいけないのでなかなか難しいのです。だからルールの中でちょっといろいろ考えて今はこれだけなのですよという話かもしれないのですけれども、実はそのルールであったり条例であったりとか、法律とまでは行かなくても条例であったりというものを変えていかなければいけない。それを変えるということになったら、多分、新城市はすごいみたいな、人を呼び込むのに住民税は今までの半分がいいですよ、それは無理だと思うのですけれども、例えばそういうぐらいのところからもうちょっと川上にさかのぼって考えた方がいいのかなと。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 補助金があるから、金利補助をしてくれるから、ではお金を使おうかなという、多分そうではないと思うのです。

工場は建てられます、家は建てられませんみたいな。

もしかしたら、それぐらいちょっと遡れるといいのかなと。

○河合恵元委員 ここには人口のこと、人を増やすことは書いていないからね。産業自治だから、人口を増やすとかいう問題に関しては、先ほど加藤君が言ったけれども。

○松本吉生委員 人口を増やすとおっしゃいましたね。

○河合恵元委員 そこには何も、ここには入っていない、言葉には何も入っていないから、だからちょっとぼやけるなど。

○石田靖典委員 人材の確保というのですから、人材、育成の確保はどう見ても新城市の人間を対象にしているので、これは市外や県外の人間のツアーではないのですけれども、新城市はこういうところですよというような発信、住んでもらうような、本当にこの新規就農者になってしまうのですけれども、新城市で就農するのでしたらこういうところでツ

アーをやって、こういうところでこういう感じで農家をやっていますというようなツアーを組むのもありかなと。やってはいるみたいなのですけれども、やはりどうも小規模みたいなのです。一応はJA、市も絡んでいるのかな、うん、というぐらいの小規模なものです。

○松本吉生委員 そうですね。それで就農してくれたら空き家1軒プレゼントしますみたいな。分からないですよ。

○河合恵元委員 空き家ではなくて古民家。

○松本吉生委員 古民家、済みません。言い方ですね。古民家が1軒もらえますよとか。古民家はいっぱいありますからね。

○事務局 ありますね。

○大石奈保委員 何か発想が、例えば市役所の方、行政の方で何か事業をやりますとなったときに、上から降りてくる形でこういう事業一つ一つを考えられているのか、それが行政だよということなのかもしれないのですけれども。

○事務局 よく言う、トップダウンとボトムアップという両極がありまして、今回のこれはトップダウンですよ。

○大石奈保委員 はい。

○事務局 ここに書いてあるところでいきますと、シンポジウムの開催というものは一例になっていますので、入るといえば入るのですけれども、融資制度とか利子補給という補助については上からではなくて、よくある、言っではいけないのですけれども、他市もやっているから新城市も出来るのではないかなというところから上がってきたものでございます。

○大石奈保委員 ですよ。何かそういうものが行政ですよというならそうなのですけれども、使いたいと思う人とか、こういうものがあつたらいいとか、頑張りたいと思う人が、下からとか上からということもあれなのですけれども、使いたいと思う人が手

を挙げて実現できていけるような支援策になっていかないと今までどおりなのです。

○松本吉生委員 これを使わなければ。

○大石奈保委員 そう。そんなものがあると知らなかったとか、いや、自分たちが思っているような使い方ができなかったとか、結局は今までと同じ仕組みなので。

○河合恵元委員 だから、結局は使いやすくないわけです。

○大石奈保委員 そうだと思います。分からないです。この難しい、何だろうこれは、となってしまうのだと。

○河合恵元委員 Q&Aとか、本当にありそのようなQ&Aの事例があるとか、使ってくれというものではない。知らなくては。

○大石奈保委員 でも、多分、市役所側では、こういうものもあるのだよ、ああいうものもあるのだよ、知らないだけ、と言われると思うのですけれども、いや、知らないだけであるだけではやっている意味がないでしょうとなってしまうので。

○松本吉生委員 例えば、いろいろやることはあると思うのですけれども、今でやったところであれば、うまくいったロールモデルをみんなに紹介するとか、そういう好事例紹介みたいなものを中でやったら。例えば、創業支援資金を使って今はこうですみたいなものを何か紹介するとか、どういうふうで紹介するかはあれですけれども、何か分からない。

○石田靖典委員 ほかの市だったらこういう感じで使われていますというような事例を出してもらえたら、これからやろうとしていることと似ているなど、では借りようかなとかできると思う。

○松本吉生委員 だから、石田さんがこんなにうまいトマトが出来ましたというような、糖度何%というような、そういうものが、もしか何かで知ったら買いたいという人が市内にもいるかもしれないし、何かそういう市内でも情報発信のようなものがあつたらいいか

もしれない。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 好事例というかロールモデルというか、何かそういうものがあつたらロールモデルとかもっと市内で。

1つがビジネスマッチングみたいな話なのかもしれないのですけれども、もうちょっと裾野のところでも何かできたりするのかなと。

○事務局 はい。

○大石奈保委員 何か言っていることは、この戦略は分かるのですけれども、このまま市民のところまで行ってしまったときに、またそういうものをやるのね、はい、になつてしまわないかなというところで、もう少し、もうワンクッション、市民の方の目線でPRだったりとか展開ができていくと、より関わっていただけるような内容になつていったりとかするのだと思うのですけれども、まちづくりだったりとかいろいろの資料を見せていただいても、こうですよ。

逆に石田さんはこちらに来られて、住んで就農しようと思ったときに、こういうものを支援して欲しかったみたいなのが、本当は市民が求めているものに近くて、そういうものを盛り込んでいった方が、より使つていただける内容になつていくのかなというふうに思うのですけれども。

それぞれ皆さんそうだと思うのですけれども。

○松本吉生委員 それをぜひ、今、いろいろ言いたいことを言って、いいですよ。

確かにそうですよね。

あと、先ほど河合社長がおっしゃったように分かり易くするというものが1つかもしれないですよ。

何かニックネームみたいな、それこそ人口を増やす、こっちに行きますけど。

○河合恵元委員 やはり、僕、ゾーニングが見えないから。すごくぼやけているのよね。市長はそれをやると言っていたものね。でも

見えない。

○事務局 そうですか、はい。

○河合恵元委員 こうやってみんなの意見を聞いて形にしていくということは悪いことではないし、必要なことだと思うのですけれども。

○松本吉生委員 でも、戦略に対する主要施策、戦術を入れるところが、今はちょっとあれですよ。このいきなり地域内での経済循環。でもあれか、ビジネスマッチングとかそういうことなのかな。経済循環。

○河合恵元委員 ビジネスマッチングは、結構、金融機関に。

○松本吉生委員 難しいですよ。

○河合恵元委員 行政が、ごめんなさいね、表現は悪いけれどプロじゃないのだから難しいと思う。商売ではないから。

○松本吉生委員 はい。

○河合恵元委員 やはり商売をする人たちは、それはそれなりにやるのだらうけれども、ゾーニングにしたって素人が出来る訳ではない。プロに頼むところはやはりプロの力を借りながら絵を描くということはすごく必要だと思うの。それをやっているかどうかもちよつと分からないのですけれども、設計者は素人ではなかなかできないよね。

○事務局 はい。

○河合恵元委員 その辺が見えないから。先ほど、作手は農業を中心とか、鳳来は観光。

○事務局 観光、林業。

○河合恵元委員 作手も林業があつて、もちろん旧新城市でもあるのだらうけれども、それをもっと、明確に出していない。

○事務局 出ていません、まだ。

○河合恵元委員 出ていないから、では、その3つなら3つとか4つの柱、農業、観光、製造業とか3つの柱で何が足りないのという話になると分り易いのだけれど。

○事務局 すごくゾーニングというものは難しい。一応、今回、主な産業という形で観光

業、林業、農業、商工業、製造業とうたいました。決めることはできると思うのです。これというものを明確に。

ただ、それまでに他のこともやっていらっしゃる方もいるので。例えば作手で。

○河合恵元委員 もちろんそうだね。それしかやってはいけないとかいう話ではないものだから。

○事務局 うん。そういうふうにイメージ的に思われる方もいらっしゃいますので。

○河合恵元委員 それはもう説明するしかないね。万民がいいねと言うわけではないのだから。

でも、市民にだとか、他県の人にとか、分かってもらうにはすごくぼやけていると思う。だってこんなまちは幾らでもあるのだから。

○事務局 ありますよね。

○河合恵元委員 日本中にいっぱいあるじゃん。何が違いがあるのと言ったら、具体的な内容に絞り込んでいく方がいいと思うのだけれども、住んでいる人もこの地域の売りとは何か、と言えない人が多かったり、どの方向性に市は行くのだろうかということが分かっていないというか。難しいのだけれども。

それをやはり市としての方針が、お経を唱えるように伝えながら市民にも理解してもらおうとか。

○松本吉生委員 そうですね。

○河合恵元委員 市長が変わろうが何をしようがその部分はぶれないみたいな。

○大石奈保委員 うん。

○松本吉生委員 でも、いろいろ気を回しているというか、先ほどの先生の話ではないですけれども、もしかして総花的になってしまっているのかどうかありますよね。

行政としては、ここにスポットライトを当てるとこっちのプランがうるさいとかいろいろあるのですけれども、ただ、ある程度のターゲットングなのかゾーニングなのか、あれ

ですけれども、もうちょっと明確にしていけないと、結果的に言うとみんなが分からなくなってしまうということですよね。

○事務局 はい。中途半端で終わってしまうということですよね。

○松本吉生委員 ええ、そうですね。

だとすれば、やはり多少は割り切るのか、割り切ってはいけないのです。河合社長がおっしゃったように説明して理解してもらえるような形というものを作っていかないと、みんながみんな分からなくて、結局うまく回らなくて、いつものパターンかなみたいなのので終わってしまったら一番いけないことなので。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 もしかしたらそうですね。

○河合恵元委員 やはりどうしたいのだというものが、どうするぞというようなものがないものだから何かぼやけちゃったような。

課題とかではなくて、課題に基づいて、こういう課題があるからこのようなことをしなければいけないのだというより、こうするぞと、こうするために何をするとした方がちょっと本気になれるような気がするのだけれども。もちろん課題があつてなのだけれども。このまちをこうするぞという。

○石田靖典委員 目標が見えないのですよね。新城市の平成30年度までの姿というのが見えないので、結局そこに向かってこの基本計画のビジョンを立てるといっても、この目標がぼやけてしまっているのです。進むにしてもどう進むかということが。

○松本吉生委員 今、4万8,000人でたっけ。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 それを普通でいくと3万人を切ってしまうぐらいなのだけれども、たしかそれを何とか3万3,000人でたっけ、に食いとめようというような話でしたよね。3万3,000人ではなかったっけ。何かそ

のような感じでしたよね。

○事務局 3万3,000人ぐらいでしたよね。

○松本吉生委員 食いとめましようみたいな。そうですね。

○事務局 ええ。

○松本吉生委員 増やすとまでは市長とかも言っていないのかもしれないですけども。

○事務局 まち・ひと・しごとの方でも増やすとまでは書いていません。

○松本吉生委員 そうなのです。書けないのでしょうね、多分。

○事務局 ええ。

○松本吉生委員 それはそうですね。日本全体が減ると言っているのにここだけ増やすということはなかなかね。

○河合恵元委員 例えば豊川市、人口が増えていると思うのです。何で。企業も増えているのだね。何で。知りたいのです。

○事務局 はい。

○河合恵元委員 何であの住宅地、あんなに。

○松本吉生委員 家が建つのか。

○河合恵元委員 はい。田んぼや畑だったところが、調整区域のはずが、何であのような住宅地になっているのか。田んぼや畑が何で企業団地になっているのか。では、何で新城市はできないのか。何が問題なのかということを知りたい。ほかの県が出来て、市が出来て、何で新城市は出来ないの。何で新東名のインターが出来たのに都市計画、新東名を基軸とした都市計画がないの。何で出来ないのかなと思うのです。そこにちょっと問題もあると思う。

○事務局 はい。

○大石奈保委員 何かこちらのグループは、前回の議事録を見せていただいたときにも目標とか産業とか産婦人科の話も出ていましたけれども、そういう話を中心だったのかな。

私はこの間、向こうのチームだったので、向こうのチームはどちらかという和生活、暮

らしの方が話の中心になっていたのですけれども、何かそこもちょっと、どちらの話をしていったらいいのと、関係はしてくるのだと思うのですけれども、どちらが先というか、暮らしやすいから人が入ってきて雇用が生まれてくるのか、それとも雇用が先で人が来るのか、どちらから話をしていったらいいのかなと聞いていて思ったのですけれども。

○松本吉生委員 確かにそうだな。

○大石奈保委員 こちらは何かどちらかという雇用の方が先なのかなとか、目標とか。でも、途中で人口の話も出たりして。

○河合恵元委員 どちらも一緒にやらないと多分だめだと思うのです。

○大石奈保委員 そういうことですよ。

○河合恵元委員 切っては切れない、離せないから、当然一緒になってしまう。

○大石奈保委員 はい。

○河合恵元委員 でも難しく考えてしまうと何もできないから。

○松本吉生委員 そうですね。

○河合恵元委員 決めたらやってみる、これは行政ではなかなか出来ないことだろうけれども、失敗したらやめる。

○松本吉生委員 両輪なのでしょうね。

○石田靖典委員 そうですね。

○河合恵元委員 その費用を入れたら失敗してしまったりとか。

○松本吉生委員 住みやすくても、やはり現実を考えると教育環境が整っているかとか、働く場所があるかとかだと、ないとやはり住めないし、働く場所があってもちょっと住環境が悪ければという話になって、やはり両輪なのでしょうね。

○河合恵元委員 総合的に判断するじゃない、人は。

○松本吉生委員 そうですね。

○大石奈保委員 そうですね。

○河合恵元委員 総合的にいい所も悪い所もあるけれども、総合的に判断して最終的に結

論を出すというような。

○松本吉生委員　そうですよね。

○石田靖典委員　人によっては別に新城市程度のまちが良いという人もいるでしょうし、これぐらい、人が少ないぐらいの方がいい、静かで良いという方もいらっしゃるでしょうし。

○河合恵元委員　そうだ、そう、そう。そこで言えば、最低あるじゃん、ラインが。

○石田靖典委員　最低ラインは人それぞれなので。

○河合恵元委員　市として、行政的に維持していくためには何万人いなければだめだとか、税収がこれだけないと今は維持できないとか。

○松本吉生委員　でも、それはそれで分り易いかもしれないですね。

○河合恵元委員　だったらまずはそこを目指そうと、めちゃくちゃ大都市になることは難しいかもしれないけれども、少なくとも今の暮らしを維持するためには、もうちょっとレベルを上げようと思ったらきっと。

○石田靖典委員　そうですね。危機意識をみんなで共有するというものがありますけれども、実際に数値で出した方が、これだけの人がいればこれだけのサービスが得られますと、ここまで落ちてしまうとこのサービスが消えてしまうと。

○松本吉生委員　松コースにしますか、竹コースにしますか、梅コースにしますか、皆さんどうしますか、みたいな。

○石田靖典委員　嫌らしいですけども、市民みんなにその危機意識を共有するというものだったら本当に。

○河合恵元委員　危機意識というより、危機をあおっても、なかなかうまくいかないでしょう。だから、この人口規模で維持するとか、もうちょっとやはり、例えば産婦人科が欲しければ税収を上げなければいけないとか、人口を増やさなければいけないとか、何かそういう具体的な数値があつて、では、それを

目指すぞと、目指すためにはこれが必要で、これを何とかしなければいけないのだとか。

別に今に満足している人はもちろんいるわけだし、減っていつてしまってもいいよという人ももちろんいるのだろうけれども、30年後は多分僕は死んでいるだろうし。でも子供や孫がいたりとか、何とかここで暮らしてほしいなとか思う訳だから。

○石田靖典委員　作手の方なんて10年後は分かりませんし。もう大抵じいさん、ばあさんばかりですから。

○河合恵元委員　やはり具体的な数字は出しにくいのかな。

○石田靖典委員　それこそ何とかコースは厳しいとか。

○河合恵元委員　でも消滅可能性都市とかかなり前の話があるけれども、人口統計というものはかなり当たるという話だね。そういうものは分かっているのだね。

○事務局　人口推計ですか。

○河合恵元委員　うん。結構当たるといふか分かっているのだね。

○事務局　ある意味、国の方、研究所の方からあおられたというところはあります。何もしなかったら3万3,000人。

○松本吉生委員　そうですよね。

○事務局　それを何とか、急激な減りを何とかしてという、下り坂をちょっと緩やかにしたいということなのですからけれども。今日課長は人口増とお話ししましたので。

○松本吉生委員　人口増と来ましたからね。

○河合恵元委員　でもそういうものでいいと思う。だめならだめ、だめならだめでしょうがない。そこまでのプロセスをきちんと頑張ったけれどもだめだったとか。

○事務局　ただ、大きな目標を掲げて、例えば今回の計画を立てるといふ話にしないと、坂が、急激がちょっと緩くなって、もうちょっと緩くなるかもしれないしというところはあります、やはり。

○河合恵元委員 具体的な話が好きだからそういう話になるのだろうけれど。

○松本吉生委員 いや、いいアイデアと思います。

○河合恵元委員 ビジョンだから余り具体的な話ではないよね。

○松本吉生委員 ビジョンとはそうですよね。掲げておくというか、みんなが目指す方向なので。

○河合恵元委員 ただ、課題があって、これだけやるのというような、できるのというようなことが。先に考えてしまうのだけれども、そんなに簡単にできるものではないから。

○松本吉生委員 そうですね。

○事務局 今までやっている事業は、企画サイドからはスクラップしなさい、よくチェックしなさい、それから次の事業を考えなさいと。だけど、今使っていらっしゃる方もいらっしゃるところもやはりあるわけで、それでプラスこれという具体的なものを言っただけだと、すごくありがたいと。

○河合恵元委員 後ろにいろいろな課の。

○事務局 課の計画がありまして、こういうふうに進んでいまして、課題はこうでこうやって進めていきますというものが。

○河合恵元委員 分かっているのだったら1個ずつやるという話だと思うのだけれども。

○事務局 はい。やっていくのですけれども。

○河合恵元委員 課題や問題点は多分分かっている。でも、数値化だとか目標設定だとか出しにくいのだよね。

目標が掲げられていないのにやれと言ってやれないもんね。どこまでやればいいのか、何をすればいいのかと分からない。

○事務局 そうですね。

○松本吉生委員 目標がないとそうですね。

○河合恵元委員 何をやればいいのかと。

○松本吉生委員 そうですね。目標があって、現実があって、そのギャップがあるから頑張ろうという話ですよね。ここまで行こうかと

というような。

○河合恵元委員 これは行政批判ではないですよ、誰だって、うちの会社だってそうですよ。目標をきちんと与えないと、そこを何とかしようとしなわけでしょう。数字がない。

○河合恵元委員 数字が1個もない。

○松本吉生委員 そうですね。

○河合恵元委員 これは失敗しても成功しなくてもいいのだよ、これ。数字もないから。目標値もないし。

○松本吉生委員 でも、それは作るのではありませんか。計画書を平成30年度前までに。

そうですね。あれは違いましたか。

○事務局 そうですね。

○松本吉生委員 そうですね、当然。途中で効果測定みたいなことも。

○事務局 もちろんそれは。

○松本吉生委員 そうですね。

○事務局 チェックをして。

○松本吉生委員 P D C A管理とか。

○事務局 数値目標をやはり立てて、ある程度の一定期間でどこまでいったか、そうすると、それがだめだったからこうするという改定をしていかなければいけないものですから。

○河合恵元委員 今の段階で予算はついていないから出せないよね、これは。

○事務局 厳しいですね。

○河合恵元委員 予算の中でやるのか、こういう課題があるから予算を幾らつけられるかという話になるのは、よく分かる。

○松本吉生委員 そうですね。

○河合恵元委員 やはり新城市産業自治振興というものを僕が理解できていないのだな、やはり。産業自治振興。

○松本吉生委員 産業自治という言葉をちょっと使いたいというところもある。そうですね。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 そうですね。

○事務局 キーですね。

○松本吉生委員　そうですね。もうちょっと何か分かりやすいフレーズとか。産業自治とは新しい言葉で新城市独自の、新城、何か。

○河合恵元委員　そう、これも分からない。「市民（ひと）が育て、共に地域をつくる」。何だろう。

○松本吉生委員　行政に頼ることなく自分たちで頑張らしましょうというあれですよね。要はそうですね。自治とはそういうものね。

行政を頼るなど、言い方はちょっと悪いですがけれども、要は頼り切りとか行政にもたれかかりではなくて、市民が自分たちで考えて自覚を持ってやってくださいねと、そういう話ですよね。

○事務局　自治はそういう形になります。それでももちろん行政も絡むけれども、産業の事業者の方たちとも一緒になって地域の課題を解決していく流れを作りたいという。

○松本吉生委員　産官学金でしたっけ。

○事務局　はい。

○石田靖典委員　農業的には簡単なのです。結局、産業自治、産業、農業ですよね。僕たちの場合は、新しく人を集めて、既存の人たちでもいいのですけれども、新たに組合を作って、その組合の中で治水とか地域の草刈りとかもあります、そういう土地の改良もあるので、そういうものを自分たちで決めて、あとはちょっとお金がないとか、市にも話さなければいけないというものは組合から市に持って行って、でも地域は組合とかで自治をするという感じですかね。

そういうものは分かるのですけれども、持っていく方が分からないという。

○河合恵元委員　行政をお願いしたいことは、僕からマッチングとか、そのようなことを僕は期待していない。そこには期待できないとか。例えば企業マッチングだったら、銀行さんの得意分野。もう全国的に、世界的にマッチング事業をやっているから、そちらの方が効果的だと思うし、そういうところでは

なくてハード面、法律だとかいろいろな規制緩和だとか、そういう面。元にいろいろな問題点がある、その元を何とかしてくれたら、後は民間がやるよと、そのような所まで入り込んでこなくてもいいよと思うのだけれども。

○石田靖典委員　僕たちも自分たちで考えてお金を稼いでいかないと食っていけないので。

○河合恵元委員　人材育成だとか、ここを行政に何か託すとかお願いすることでもないし。

人を増やすのだったら人を増やせない課題だとか流出してしまう課題が多分分かっていると思う。

○事務局　はい。

○河合恵元委員　そのハード面を、それを何とかクリアしようとやってくれたらいいと思う。例えば、ゾーニングかもしれない、それは。

○事務局　はい。

○河合恵元委員　ここにちょっとまちをつくりたいねとか、新東名を生かした子育てをする世代の人に安価な土地を用意するとか、それはゾーニングするしかないと思うのです。既存の、家が建たないという条件の土地で建てるにはどうすればいいのという話だと思うのだけれども。だからハード的なこと。ハードと言うのかな、そこは。

○松本吉生委員　ハードですね。まあ、そうですね。

設楽町とかあれですよね、家を建てるために500万円をもらえて、土地も超安価で渡しますよと、それを直してここに住んでくれるならもう土地をあげますよと、建物を建てるだけでいいですよと、建物を建てる、家も500万円をあげますよというような、たしかそうだったと思うのですけれども。

○事務局　はい。

○河合恵元委員　行政が何もかもやろうとするから難しくなってしまうと思う。

僕、今日もちょっと話したいことがあって、

企業団地、県だとか市が造ろうとするともう全部、どうぞここに来てください、までやると大変な費用がかかるし、来なかったらどうするのだ、誰が責任をとるのという話になるでしょう。

○事務局 なりますね。

○河合恵元委員 そこまでやらなくてもいい。既存ではできないような、今は新東名を基軸としたことで、ここを企業用地として使えますよと、使いたい人、売りたい人、貸したい人、出来ますよと。一人ですればいい、1から10まで用意しなくても。あとは民間がやるからいい。法律か条例の規制緩和をする。何もかも受け入れると、ぐちゃぐちゃになってしまうかもしれないけれども、そこはやはりゾーニングをするべき。

○松本吉生委員 何とか特区みたいなものをつくって。

○事務局 特区、はい。

○松本吉生委員 団地ではないけれども工場を建てる用意をしておきますから来てくれたらいいですよ。農業特区のようなものがある、来てくれるなら何か安くするとか。分からないですけれども。

○大石奈保委員 特区はいいですね。観光の部分でも特区となったら、出店したい人はこの地域だったら、となるとうれしいですよ。

○河合恵元委員 真似でいいと思うけれども。例えば浜松なんかは商業施設ではないですけども、本当に個人事業者というか、何かマニアみたいな人たちが集まるまちが出来たりとか、何であるようなことが出来るのかなと。本当にすぐそこの隣の市だったり県だったり、そこが不思議だよ。

○事務局 はい。

○河合恵元委員 でも勝手に出来たわけではない。誰か絵を描いているはずだから。

○事務局 ええ。

○河合恵元委員 そういう絵描きに聞き込みをするとか、何か出来ないかなと。

○大石奈保委員 何かやってくださいとかではなくて、やりたい人がやりたいのですけれどもと集まれるような特区がやはり受け入れる側に用意をきちんとしていないと、移り住み易いか住みにくいかということにもなってくるだろうし、商売し易いかしにくいかということにもなってくるのかなと思います。

○松本吉生委員 それと、いろいろ直接的な施策もそうなのですけれども、もしかすると行政としては、そういうところは自分たちで、企業であったり、農業の方であったり、畜産の方であったり、商店主だったり、それぞれが民間で、頑張っていない人はいない。頑張るので。そのもっと上の方の何か行政の縛りというような、ちょっと取っ払っていただくような仕組み、何かやってあげますよと、整えますよというよりも何かみんなが自由に動けるような規制を取っ払うというか。

今、行政はどうしてもルールとか規制があって、その中で出来ること、当然そうですね、予算があってその中でというような話になってくるので。もしかしたらいつも似たようなことをずっとやってきて、またもしかしたら同じような話みたいな、ちょっと名前が変わっただけだよというようになってしまふので。何か新城市は変わったねというようなものが欲しいのかもしれないですね、これから動かしていくとなると。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 ましてや第二東名が出来て、あのようなものは今後100年経ってもないですよ。

○事務局 ないですね。

○松本吉生委員 ですよ。今後100年間のうちにあのようなチャンスなんて。

今はもしかしたら、今後100年分ぐらいのチャンスが今来ているのかもしれないから、何か今。

○事務局 今ですよ。

○松本吉生委員 いや、それは来年度からや

らなければいけないこととか、動かなければいけない部分はあると思うのですけれども、もしかしたらもうちょっと、ゼロベースとは言わないですけれども、もうちょっと行政として既存の概念を少し外してみるというような所で。

全部どこでも家を建ててもいいですなんて言ったら大変になってしまう、ぐちゃぐちゃになってしまいますから、だから都市計画があるのですけれども、でも、それを少し取っ払ってみるとか。

○河合恵元委員 何年前でしたっけ、この都市計画。何年前の都市計画だったっけ。

○事務局 都市計画ですか。

○河合恵元委員 都市計画というか、何だろう。新城市の都市計画というか、ここは家を建ててもいいですよとか、だめですよとか。

○事務局 区域を張ったときですよ。

○河合恵元委員 うん。

○事務局 多分、市になったときですよ、新城市に。それでまず市になりました、だからここは住んでいいですよという区域をちょっと決めてやっていく、その規制がちょっと広がらないので調整区域であったり農地法であったり。

○河合恵元委員 調整区域で言えば、調整区域は何年前から変わってないの。

○事務局 長篠地域は準用地域に少し変わりつつありますけれども、長い間ずっと新城市内は規制緩和になっていないです。そこですかね。

○河合恵元委員 そこにも問題、問題というか今のニーズに合っているかというところ。

○事務局 そこが弾いている理由ですものね。

○松本吉生委員 働く場所ができるから住む場所ができるか、住む場所ができるから働く場所がその後から来るのかと、先ほどの話でやはり両輪なので、やはりそこは土地というかそういう計画部分というものが結構。

やはり皆さんから聞きます。家を建てたい

と思うのだけれども、ちょっと建てる場所がないとか、企業として出てみたいという気持ちはあるのだけれども、やはりなかなか建てる場所がないとか、逆に人が少ない、集まりそうもないのでちょっと進出ができないとかという話はやはり聞きます。

○河合恵元委員 災害に余り弱い地域ではないですよ。

○事務局 ええ。

○松本吉生委員 そういふところはいいところですよ。

○河合恵元委員 その面を前面に打ち出すとか。いいところだってあるもの。

○松本吉生委員 めっちゃでっかい土地をつくってトヨタに田原市から移ってもらいましょう。

○河合恵元委員 いいね。

○松本吉生委員 津波が来てしまいますよ。新城市へ来たなら、スズキとかそうじゃないですか、本社は移っているじゃないですか。やはりそういうことを彼らは考えているわけですよ。もう大胆に工業団地どころではなくて、トヨタさんいらっしゃいというような。

○河合恵元委員 例えばトヨタが来ないにしても、トヨタに関連している、どこの関連でもいいのだけれども、やはり安全な地域で仕事をしなさいと、仕事をしないと困るということになっているのだよね。だから浜のほうから丘のほうに上がってきているというような。

○事務局 はい。

○河合恵元委員 ただ、ないのだよな、土地が。

○松本吉生委員 多分、彼らが来るほど大きなところはないし、多分、工業団地で作っているよりもうちょっと小さく欲しいという方もいらっしゃいます。

○事務局 いらっしゃるので。

○松本吉生委員 だから、大きさがちょっと中途半端という訳ではないですけれども、比

較的値段が高目で、まあまあの会社を想定されているので。

石田さんは、農業をされたいとか。やはり何か、どういうあれで農業をやりたいと来るのですか。

○石田靖典委員 会社が嫌になったということとは多いとは思いますが。

○松本吉生委員 いや、新城市を選ぶというか、土地を選ぶあれで言うと。

○石田靖典委員 一応、僕の場合は、就農者フェアというものがあまして、そこで新城市がブースを出していて、ちょっとこちらの方にも来たことがあったりとか、あと条件がそれなりに良かったので来たという感じなので。

○河合惠元委員 いいと思ったのだよね。

○石田靖典委員 はい。

○河合惠元委員 総合的に見て。

○石田靖典委員 総合的に見て。

それもこの間、県の方が来られたときにちょっとお話したのですけれども、やはり元サラリーマンとかだと総合的に考えて、あと、いろいろな条件の中から一番いい所を選んで来ると。そのときは新城市のブースの説明が一番良かったということで、ここに決めましたという形で話したのですけれども。

何で農業をやるかは人それぞれだと思いますけれども。

○河合惠元委員 例えば、農業をしたい人が本当に集まってきたら、もっとがangan、例えば作手に集まってきたと、それは商売敵にならないの。そういう発想ではないの。

○石田靖典委員 商売敵にはならないです。

○河合惠元委員 ならないんだ。

○石田靖典委員 逆に売り場を確保できる、地域で売り場を確保できるようになるので、逆に日本全国に売り場を作ることが出来る。他の産地を追い出して。

○松本吉生委員 大量に安定的にというか、それなりに数量を確保した上で提供できると。

○石田靖典委員 はい。ですので、ほかの産地を追い出すことができるという形になります。

○松本吉生委員 そうかもしれないですよ。買う方からすると、やはり安定的な供給をしてもらえないと、ということがありますから、そういうものが安定する。

○石田靖典委員 はい。農業の場合はそういうものがあります。

○河合惠元委員 特別なものではないものね。

○石田靖典委員 はい。商売敵というよりも仲間になります。

○松本吉生委員 なるほど。

○河合惠元委員 うちみたいな業態が近くに余りあると困るもの。

○石田靖典委員 仕事の取り合いになりますよね。僕たちの場合は、卸先はもうJAと決まってしまうので、個人でやりとりする場合は商売敵になりますけれども、個人で出来るほど大きくはないので、大体みんな仲間になってしまいます。

○河合惠元委員 そうか。

○大石奈保委員 観光の場合もそうだと思います。観光の場合も昔は旅館がお客を取り合うというような話になっていたのだと思うのですけれども、今、絶対的に地域が連携して1カ所の旅館に滞在する時間なんてたかが知れているので、もうそこからどんどん広がってもらわないと、もうそこだけでお客さんを呼び込むなんて難しいのです。ですので、観光の場合は、逆にもう本当に地域で連携して、仲間がどれだけいるかということで、もううちからどんどんこちらに行ってください、あちらに行ってくださいという連携をとっていかないとだめだと思うのです。だから近いかもしれないですね。

○石田靖典委員 農業の場合は人を集めて農協を強くして、強くすればそれだけで影響力が強くなっていく。その地域、本当に田舎なんて農協を中心で回っているので、農協がで

かくなればでかくなるだけ地域が豊かになっていくというような考えなのです。

作手は、農協がなくなったらガソリンスタンドやAコープがなくなって、何も出来なくなってしまうのです。

○松本吉生委員 確かにそうですね。

○石田靖典委員 ですので、ちょっとその辺はもう危機管理、結構持っています。できればJAに働きかけて新しい人をどんどん入れて。その地域を守るといことも個人事業主としては1つやることかなということがあるので。

○河合恵元委員 偉いな。

○石田靖典委員 結局、住む場所がぼろぼろでは野菜を作るにしてもどうにもならないので。作手だと、どうしても今は農協メインで地域ができています。

○松本吉生委員 やはり農協さんにはおっしゃるとおり地域を支えてもらっているというようなどころがありますからね。生活インフラから守ってもらっているところですね、確かに。

これは何か最後に発表しなければいけないのですか。発表か何かあるのですか。

○鈴木誠協議会長 簡単に論点を幾つか。どのような点でもいいです。

○松本吉生委員 では、先ほどの。

○河合恵元委員 ビジョンだから、分かり易くしなければいけないよね。これだけ話を聞いたり意見を言い合ったりした中でも分らない。

○石田靖典委員 シンプルなビジョンが欲しいですね。

○河合恵元委員 分からせないといけない。分ってもらうとは、みんなやるぞということだから。

○石田靖典委員 先ほどの話で人が先か産業が先かは別としても、人を増やして産業を豊かにするとか、それをビジョンにするのか、産業を興して人を呼ぶ、それをビジョンに、そういうビジョンにするのか。

○河合恵元委員 何かバランスがとれた地域らしいが、海というか海産物はないにしても本当にバランスがとれている、ではなかったっけ。

○松本吉生委員 観光と農業と。

○石田靖典委員 ええ。観光があつて農業があつて、商業もあつてですから。

○河合恵元委員 新城市は広いからバランスのとれた環境ではあるはず。その数値を、1%でも10%でもいいのだけれども、5%上げる、農業出荷高をこれだけ上げるとか、そういう割合はどうするのとか、人口を5%上げる、それにはどうするのとか。

○松本吉生委員 この戦略1というもののですけれども、この地域内の経済循環は結果的に言うと、この2、3、4、5をやる中で、これは全部に掛ってくると思うのですけれども。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 この戦略1というものが最初に来て、2、3、4、5とまた別に立っていると何かちょっと分かりづらくて、それが多分、ここで最初に所得と雇用の創出とあるのですけれども、これは実は全部に掛りますよね。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 だから何か別ではなくて、これは縦に全部掛っていくのではないかなとちょっと思ったので。

(佐藤班討論開始)

○佐藤真琴委員 よろしくお願ひいたします。

きょうは4人と力強い加藤さんがいるので、では、よろしくお願ひします。

まず、ちょっと話を始める前に、今のプレゼンテーション、お二人からいただいたプレゼンテーションの中で、ちょっと分かりにくかったこととか言葉の定義とか気になることを先にちょっと解決したいと思うのですけれど

ど、どうでしょうか。何かあれば加藤さんに質問を。

○加藤商工政策課長 西田さんもそちらにいるので。

○佐藤真琴委員 どうですか、何かありましたら。

では、ちょっと私、一点。18歳人口がすごく流出しているよという話がずっとあるのですけれども、具体的に何%ぐらいいなくなってしまうのですか、18歳人口は。新城市で、18歳のどのぐらいが出ていってしまうのですか。

○西田商工政策課主任 昨年度で言えば7割。

○佐藤真琴委員 7割が出ていってしまうのですか。

○西田商工政策課主任 ごめんなさい。就職する人たちの7割が出ていきます。進学と就職の割合がちょっと忘れてしまったのですけれども、就職の7割が市外、3割が市内です。

○佐藤真琴委員 これ、多分、進学される方は、看護学校以外にあるのですか、ここ、新城市は。

○西田商工政策課主任 ここはないです。

○佐藤真琴委員 看護学校へ行った人以外の進学は、きっと。

○西田商工政策課主任 市外です。

○佐藤真琴委員 出ていってしまうということですよ。

○西田商工政策課主任 はい。

○佐藤真琴委員 出ていってしまった人というのはどのぐらい戻ってきているのですか。人口割合でいくと。

○西田商工政策課主任 それが学校でも分らないそうで、ちょっとまだ調べられていないです。

○佐藤真琴委員 体感値でほとんど戻ってこないのか、何となく。

○加藤商工政策課長 ほとんど戻ってこないに等しいですよ。一部上場企業が役所と農協と郵便局という典型的なところで。ほとん

ど戻ってこないです。

○佐藤真琴委員 その人たちが戻ってこないから、何か人口が減っていってしまうという仮説が1つあると思うのですけれども、もう一個、人口を増やしたいと言っているのですけれども、どの辺の人口を増やしたいとか新城市はあるのですか。一番増やしたい人口はやはり出産人口とか、そのあたりの人が増えて欲しい。

○西田商工政策課主任 自分の感覚で言うと、UIJターン者とか、例えば新規就農者だとか、ビジネスを何か起業したいという、コミュニティ・ビジネスをしたいという人だとか、そういう人たち。

○天野勇治委員 新規就農と、あとは何ですか。

○西田商工政策課主任 コミュニティ・ビジネスとか、そういうイメージではいるのですけれども。

○加藤商工政策課長 一番の、今のところも大事で、そこのが攻めていくところなのですけれども、新たな産業を作り出すとかそういう部分で。ただ、一番直面しているところは生産人口という部分、直面している製造業の雇用の方もなかなか集まりにくいということが現状なので、そこのところは頑張っ

て埋めようと。

○佐藤真琴委員 ここに既にある製造業の支店があるのではないですか。

○加藤商工政策課長 はい。

○佐藤真琴委員 多分、横浜ゴムさんとかそうですね、そういうところに働いてくださる方が足りないから連れてきたいのか、それとも何かもっと違うものでも、企業誘致も考えていて、そういうもので「ばん」と来て欲しいのか、どちらなのですか。

○加藤商工政策課長 いや、企業誘致で「ばん」というのは、確かにそれを仕事でやっているのですけれども、企業誘致もやっているのですが、そこに500人規模だとか300

人規模の製造業が来てしまうと、河合さんたちのような中小はきっとなくなってしまいます。福利厚生がしっかりしていて、給料を1万円余分に出しますと言ったら、みんなそちらに行ってしまうですね。

○佐藤真琴委員 確かにそうですね。

○加藤商工政策課長 現状はですよ。

○佐藤真琴委員 現状は。働いてくれる人も、その人口そのものがここに住みやすくなって、生産人口が増えていくことがやはり一番の狙いで、それプラスここで業を興すようなUIJターンの人もそう、新規就農もそうだし、いろいろな業を興す人たちも増えたらいいなという2本立てな感じなのですね。

○加藤商工政策課長 ぜいたくなものばかりですけども。

○佐藤真琴委員 でも本当ですものね。

○加藤商工政策課長 そうです。

○佐藤真琴委員 私の疑問は解けました。他にどうですか。

○天野勇治委員 1つ聞きたいのですけれども、これ、新城市で考えられたではないですか。

○加藤商工政策課長 はい。

○天野勇治委員 例えば、よそが、出たこういうビジョンとか、多分、どこでも同じような。

○加藤商工政策課長 多分、全国同じように。

○天野勇治委員 やっているよね。

○加藤商工政策課長 はい。進めているはずですよ。

○天野勇治委員 そういうものを見たことはありますか。どこか何かすごく新城市だけ違ったとか、何かそういうところがあると。

○加藤商工政策課長 3月の終わりに来ていただいて話をしたところだとか、住田だとか佐倉だとか、千葉の方のところがあるんですけども、どこも同じような。

○天野勇治委員 だよ。そうなるのだよね、多分。

○加藤商工政策課長 そうなのですよ。よそは中小企業振興条例とかいう名前なのですが、うちは鈴木先生に来ていただいて、産業全体ですね。産業を地域でつくり上げようとか、そこがソーシャルの部分だったり、コミュニティでも作りましょうよという部分を含んでいるところがちょっとよそと違うかなというところなのですけども、という感じですよ。

よく言う、自分でもまだよく理解できていない「らしさ」というところが。

○天野勇治委員 特色ですよ、新城市の。

○加藤商工政策課長 新城らしらというものがやはり欲しいのですけれども、今ある製造業の方たちは、もう変な話、前にも西紋さんとも、どこかの方と話をしたことがあるのですけれども、働いてくれる人がいなくなったから別にここにいる必要がないよと、出ていってしまいますよね、ごそつと。そんな急にはないでしょうけれども。

○佐藤真琴委員 正直なところ、どうでしょう。

○西紋賢嗣委員 そうですね。多分そうですね。

○加藤商工政策課長 そうですね。少しずつラインを減らして行って、最後には出ていってしまいますよね。

長い目で見たときとそうになって散ってしまうので、製造業のことに言え、もう小さなうちから、今まで物づくりということに携わることがなかったので、小さいうちから物づくりに触れさせたり、小中でも企業見学をしたりだとか、高校生にもどどん見に来てもらおうということをやっている意識を植えていかないと。先ほど西田さんが言ったように、外へ出ていってしまったらきつと出ていった大学の近くで会社を探すとか、大学にある求人で見ってしまうとかというふうにならないように、そう言えば地元にもあんなところがあったなと思ってもらわないと。

○西紋賢嗣委員 ただ、うちは製造業なので、はっきり言いますと、常にどれだけ少ない人で作れるかということを追いかけていますので、いなくなったら出ていくということになるかどうかちょっと分からないですけども。例えば1,000人で今作っているものを500人で作れた方がいいということになるので、それはもう毎日毎日改善だ、改善だともちろんやっていますので、単純に本当は500人で作れるものなら作りたいということがあるので、そこは単純に人が減ってきたから行ってしまうということとつながるかどうかということとは分からない、かなとは思いますがけれども。

できるだけ設備を変えて自動化して、人手がかからなくて作っていった方がいいということは、もうそれは企業として追いかける宿命にありますので。

○加藤商工政策課長 そうですね。

○佐藤真琴委員 人数ではないですよ、きっと。

○西紋賢嗣委員 うん。

○佐藤真琴委員 この、何か地の利というものはあるのですか、産業的に見てこの場所を選んだ。

○西紋賢嗣委員 難しいですね。

○佐藤真琴委員 アクセスとか含めて。

○西紋賢嗣委員 うちの場合は、もともと静岡の三島というところは古いのですけれども、70周年といったので、うちより20年前ぐらいに出来ていますけれども。あと、三重県の伊勢市の方に三重工場でトラック用のタイヤを作っていたのですけれども、車の性能がどんどん上がってきたので、少し三島で作っているサイズだと、ちょっともう小さいねということもあって。そのときに、今で言うと、低扁平というのですけれども、ぺらぺらのタイヤになってきていますけれども、どんどんそういうインチを上げて操縦の安定性を高めるようなタイヤが求められてきていたときに、

その間ぐらいで探していたみたいです。三重と静岡の間ぐらいでということ。

あとは、この辺ですと自動車メーカーも多いので、愛知県の中で候補地を探していったときにちょうど誘致をされていて、あそこだったらトヨタへ行くのも他へ行くのもそれなりにアクセスがあるので、ということで選んだというふうに聞いています。

○佐藤真琴委員 多分、人数だけではなくて、総合的に見たときに、戦略的にこの場所が良かったということですよ。多分、本当に人だけという話になったら、短期雇用で採用して、寮があるから「ばっと」突っ込んでしまえば、人の問題は結構どうなのでしょう、解決するのですか。

○西紋賢嗣委員 そんな短期雇用でとって人が集まるか、というとなかなか集まらないので、そうはいかないと思いますけれども。

○佐藤真琴委員 新城市は、今、おっしゃってくださったみたいに、多分、人がいるからここに来たということではないということですよ。人と場所で誘致されたからここに来た、そうではないということですよ。

○西紋賢嗣委員 単純にそうではないです。多分、あそこの野田の所が大売り出ししていたのだと思います。相当、そんなに企業誘致、そのときも多分、聞いた話だと積極的に進めていたらしくて、新城市が。結構安かったのだと思います、多分。

○加藤商工政策課長 そうですね。

○佐藤真琴委員 今、そういうお話が出て、人口を増やしていこうと思ったときに、先ほどちょっとプレゼンテーションを聞いていて、何か2種類あるなと思ったのですけれども。何かこの土地が好きだから帰ってくる人ということと、この土地が有利だから帰ってここに住む人という何か2種類があるのではないかなと思っていて。ただ、この話の筋で、それがぐちゃぐちゃになっているので、マーケティングがきちんとされていないような、そ

うという印象があって。何か投網を打てば入ってくるような印象があるのですけれども、新城市としてのこの土地が好きで帰ってくる人というものも、もちろんここで生まれ育ったり、外から見てすごく魅力的だなと思って来てくださる人というものも1つだし、産業があるから入ってきて、働く場があるし、住むところもすごくいいしという、産業の魅力で入ってきてくれる人という2本柱で考えると、そういうものは何か、そういうセグメントはされているのですか。入ってくる人の想定とかはしているのですか。

○加藤商工政策課長 入ってくるほうの想定もしていますし。

○佐藤真琴委員 しているのでしょうか、きっと。

○加藤商工政策課長 しています。その入ってくるというものは、U I J とかの話ですか。

○佐藤真琴委員 U I J もそうですし、だから、人口の数字の話ではなくて愛着とか、どの動機で入ってくるかということの一応想定はされているのですよね。

○加藤商工政策課長 一応されています。

○佐藤真琴委員 そうなのですよね。これに書かれているものというものは、どちらに向かっていっているのですか。

○加藤商工政策課長 ここに書かれているものは、どちらかというU I J に沿ったものが多いです。

○佐藤真琴委員 ここに産業があって、しかも住みやすそうだから入ってくる、就農もそうだし、何かこの地の利があるからここに住んでみたいなと思って帰ってきてくれる人というものを想定しているのですよね。

○加藤商工政策課長 そうです。

○佐藤真琴委員 ここの中で産業を興す人という想定よりも、外からいかに来なくなる新城、住みたくなくなる新城になるかという方が主軸なのですか。どうなのですか。

○加藤商工政策課長 そうなのですから、

新しく高速ができたり、そこそこ浜松にも名古屋にもというような距離感だったり、新規就農もそうなのですから、I とか J とかいう部分になるので、地の利を生かして新たな産業を生み出すという方が、あなたは割合が高くこれを作っているよね。

○西田商工政策課主任 その辺を意識していなかったのですけれども、魅力、好きだからというものが有利だからというものは全然意識していなくて。ただ、今そうやって言われてみると、確かにこの土地が有利だからというものでパワーポイントは作っていたと思います。

○澤上花子委員 何が人口につながるか、それはちょっとまた別のことになるのかもしれないのですけれども、今は本当に趣味を生かしたいという主婦とか本当に大勢いて、自分で物を作って、それを販売したりという、そういう場所で、今、蒲郡のラグーナだとか、あと一宮市にすごく大きなイベントがあって、全国から300店舗ぐらいの、陶器を作っているといろいろな人たちが集まるイベントがあって、わざわざそのチケットを買ってまでみんながそれを見に来るといったイベントが多分いろいろな各地でやっていると思うのです。

だから、今ある中で人を呼ぶ、人口はそんな簡単に増えるものではないと思うので、そういうところに人を呼んで新城市というものをアピールして、土地を、せつかく県民の森とかやまびこの丘とか、本当に自然がいっぱいのあるところがあるから、そういうところでマルシェを開く、そういう何かイベントを新城市が先立ってちょっといろいろな一宮とか蒲郡が、どこが主催でやっているのか分からないのですけれども、そういうところで全国から人を集め、せつかく高速もできたし、集めることによって、そこで何かまた広がるものが、1年に1回、2回あるイベントに人が寄るといったような、そういうことも何か栄える

ことにつながるのかなと思うし、そこでやはり何か物を作っている新城市の人たちが一生懸命作って、例えば私だったらそういうところに参加するのなら、お菓子を作って持ってくる、そういう形で1年に二、三回すると、鳳来寺の門谷の小学校でもそういうイベントがありますよね、そういうものをもっと大きくするというのもいいのかなと。

新城市は多分そのような大きいイベントはないのかな。豊川でもちょっとあったりしますよね。

○西田商工政策課主任 「ものおとピクニック」とか「ヒトコトモノマルシェ」とか、そういうものが新しく出来ています。

○澤上花子委員 そうです、それです。

それを市の方でやる、田舎の自然の中でやるとか。

だから、それが人口にはちょっとつながらないけれども。

○佐藤真琴委員 即住民が増える訳ではないけれども、流動人口が増える。

○澤上花子委員 うん、増えるということで、やはり物づくりをしている人たちはそこで頑張る、楽しさを知って。そういうものも1つの産業につながるのかなと思います。

○佐藤真琴委員 ゆるキャラもすごく、「どかんどかん」といろいろな所で出ていますから。

もう恥ずかしながら浜松市はすごくお金を使っていて、本当にやめて欲しいのですけれども。

○澤上花子委員 家康だったっけ。

○佐藤真琴委員 家康くん。もう本当に勘弁してくださいと、もう委員全員が勘弁してくださいと言っている、なかなか珍しいイベントなのですけれども。もうグランプリをとったからいいでしょうと言われているのですけれども。

ああいうふうにイベントをすると、やはり人がたくさん来るのです。集客もすごくある

のですけれども、費用対効果で考えると、かなりの赤なのです、やはり。

浜松市を知ってもらおうイベントといっても、来た人がお金を落とすかという、実際はそんなに落とさないのです。ちょっと私、詳しい数字を今持っていないので出せないのですけれども。

家康楽市というものをやっているのです。浜松市が主導して、浜松市役所の横に結構大きな場所があって、昔、体育館があったところを潰して駐車場になっているのです。そこにテントを立てて、すごく人は来るし、そこにお店を出している人たちもちろんハンドメイドの人もあるし、まちなかで一晩ちょっと何か懐石を食べると1人当たり5万円というようなところのお店とかも500円とか1,000円ぐらいで、例えばすごくいいフグ屋さんのフグの空揚げとか、そういうものも出していたりとかして、まち全体が参加しているということにはなっているのですけれども、実際、それでどのぐらいの効果があるかというと、正直、赤字だという統計も出ていて、それはやはり全国的に見ても、イベントの効果自体が単発なものだと人の流動はあるけれども、それはにぎわいではなくて何かイベントに来て1人1,000円使ってくれても、正直、それを行政主導でやってしまうと、結構大変なコストがかかってしまうと。

これ、だめと言っているのではなくて、これ、やり方を考えるといいと思うのです。行政がお金を出しますと言うと消化試合になるのです。予算で、では、ことは300万円ありますと言うと、本気で300万円あるからこれをやりましようとなってしまうのですけれども、いろいろ考えるところからきちんと事業化しながら考えてやっていくと意外と出来て、ちょっと具体的な事例だと、例えば東北で復興マラソンをやっているのですけれども、その復興マラソンは登米市というところでやっていて物すごく田舎なのです。くり

こま高原駅から何とバスで30分とか40分とかかかるのです。でも、そこに1万人近い人たちがやってくるのです、2日間で。売り上げとかいろいろ含めると、税収が3,000万円ぐらい。2日間だけで、税収ベースで3,000万円ぐらいプラスなのです。その平均年収が200万円しかないまちなので、すごく税収効果なのです。

それはどうやって持ってきているかという、アシックスさんとか外のところとの、既にあるマラソンの仕組みをそこに持ってきたり、あと地元には酒蔵がたくさんあるので、酒蔵を集めてきて酒蔵の人たちに、みんなにチケット制でお酒を出してもらうのです。とかすると、外から来た人とか、もう当然、海外の人も結構いるのですけれども、ランナーで、その人たちがそのファンになっていくのです。年に1回来ると、その人がスピーカーになってくれて、今、登米市のお米、台湾で売られているのです。それはやはりそこで登米市のお米を食べた人がこれはおいしいねと言って、持って行って。そういうことをきちんと興すリーダーみたいな人がやはりいると、消化試合からきちんとした仕組みになって、その仕組みに乗っかる人がいるのです、きちんと。だから、作家とかが仕組みからやろうと思うと結構大変ですけれども、きちんとリーダーシップを張れる人がそういうふうに興すと、そういうものもありですよ。

そのソーシャルビジネスとかを興すというようなことだったのですけれども。でも、それを外とやると考えたときに、それぐらいダイナミックなことを考えることも何か、そうするとそういうことも出来るようになるのではないかなと思ったりするのですけれども。

○西田商工政策課主任 自分は外に、東京の大学に出ていたのですけれども、地元に戻ってきたくて、どのような仕事ができるのかと見たときに、市役所だとか消防だとかがあって、結果、鳳来の市役所に採用させてもらっ

て、今ここにいるのですけれども、自分としては、市として、市役所に入ったからということもあるかもしれないのですけれども、地域づくりにすごく興味を持つようになって、一回外に出て見てみると、結構いろいろな人がいろいろなことをしていて、それに関わると、そういうネットワークがすごく出来てくるのです。

市役所の職員として、多くの人にそういった地域づくりに関って欲しいと思っているのですけれども、例えば、一回地域に出てみると、すごく自分はおもしろいと思ったのです。やはりその入り口というものをいろいろな事業所に設けてもらうということも、その地域の魅力づくりの1つにつながってくるし、そういった魅力がある地域になってくれば自然と人が集まってくるのかなと、集まればまたそういったようなマルシェだとかやってみたいという人が出て、それに乗っかる人が来るという、そういうような循環が出来るのかなと思うのですけれども、何となく今、澤上さんのお話を聞いていてそのイメージが浮かんできたのですけれども。

○佐藤真琴委員 何かやはり興すとなると結構ハードルが高いのですか。

○澤上花子委員 自分たちが主になって、何か全然想像が出来ないのですけれども、やはりそういうイベントに常に参加している人たちもいる中で、私は二、三回ちょっとイベントに参加したことがあるのですけれども、やはり主になっている人がいて、まとめてくれる人がいて。建設関係の仕事をやっている方が1年に1回、その自分のイベントにいろいろな人たちを呼んで、10軒ぐらい呼んで。その中で個人もいろいろなものを持ち寄って、建設が主になっている人たちは自分のお店を知ってもらって、網戸の交換をしたりとか、お家を建てる時にお願いますというような、実際の仕事につなげている。

○佐藤真琴委員 何か建築会社は結構ありま

すよね。

○澤上花子委員 そうですね。

○佐藤真琴委員 この間、セキスイハイムも似たようなことをやっていて、大阪の梅田の本社ビルのところで賃料だけで100万円ぐらいするところを賃料を取らないで貸しているのです。

○天野勇治委員 先ほどの話で、ちょっと戻ってしまうのですけれども、転出者を防ぐのか移住者を増やすのかという話が先ほど出ましたよね。どちらで行くのですか。今の話で、今、途中からイベントをして両方を一緒に行くのが一番いいのだけれども、でも、平成31年には結果を出さなければいけないのでしょ、ある程度は。

○佐藤真琴委員 だから、これ、流出を防ぐのか入りを増やすのかといったら、両方やらなければいけないのですよね、きっと。

○加藤商工政策課長 両方やらなければいけないのですけれども、転出、学生で出ていかれる人たちをやめろと。

○天野勇治委員 地元にもいいところがあるよと。

○加藤商工政策課長 いるわけにはいかないよね。

○天野勇治委員 入ってくれるように。

○加藤商工政策課長 そういうことです。1回はやはり出ていってしまうことは仕方ないので。

ただ、地元にもいいところはあるよと言って、素直に入ってもらう人たちを育てるのですけれども、今の御時世、出ていってしまうというということが現実なので、そういう方たちがまた戻ってくることと、移住して来る人が、外から入ってくるという形ですよね。出ていってしまう。

ただ、もとは住んでいたのという、西田くんみたいな。

○天野勇治委員 移り住んでくる人を増やすという戦略がメインになるかもしれない。

○加藤商工政策課長 それは、これで話をし

て。

○天野勇治委員 そうか。

ただ、今の話で高校生のそういうことが、そういうものもやらなければいけないということですよ。

○加藤商工政策課長 そうです、そうです。

○佐藤真琴委員 仮説として、多分、今、この一番もとの仮説は、新城市に戻ってきたいけれども戻ってきても住めないという仮説がある気がするのです。

○加藤商工政策課長 そうです。

○佐藤真琴委員 きっとそうなのですよ。なので、そこを何とかしなければいけない施策の柱と、かつ外側にやはり広告、宣伝もしていかなければいけないから、その2つの柱があるという感じなのですかね。

○加藤商工政策課長 天野さんが言われたような話で言いますと、農業なんかだったら、先ほどの資料の中でも「稼ぐ力」と作手の資源を生かし切れないと、もう農業しかないじゃんというところがあるのです。

○佐藤真琴委員 いいではないですか。

○加藤商工政策課長 はい。会社もない、きれいな自然と、美しい自然ときれいな川しかないだろうというところが。

地域ごとにやることも決まってきますし、新城市だったら製造業があるので、それを何とかしていかねばいけません。

そうやって答えている自分がすごく行政らしくて嫌なのです。

○佐藤真琴委員 行政の人ですから。

○加藤商工政策課長 そうなのです。

○佐藤真琴委員 時々忘れてしまうのですけれども。

○加藤商工政策課長 はい。

○佐藤真琴委員 出ていったら結構楽しいではないですか、世の中。田舎に住む、もちろん田舎は田舎ですごくいいのだけれども、田舎に戻ってきて住みたいと思うまでに、多分

いろいろなことを外で経験して、それでもすごくいいこともあって、ゆっくり時間の流れの中で生きられて、そのときに一番大事なものは何だと思いますか。

○西田商工政策課主任 どちらがですか。

○佐藤真琴委員 田舎に暮らそうと思って安心して暮らせるとき、田舎に戻ってきて安心して暮らせるなどという、そうなるために一番大事なことは何だと思いますか。

何かペルソナ的に、例えば35歳ぐらいで奥さんと子供がいて、子供が1人、2人ぐらいで、まだ子供が小さくて、幼稚園に入るか入らないかぐらいで、仕事もそこそこやってきて、何となく横のつながりがあって、新城市に戻ってきても前のつながりで仕事ができるなどというような、そのつながりが無い今までの積み重ねてきたもので新城で何か御飯を食べていけるなどという、そういう人はペルソナとして、その人がここに戻ってこようと思うときに一番大事なことは何だと思いますか。判断の最後の背中を押せるような、これだったら新城市に帰ってこられると思うことは。

○西田商工政策課主任 親がいる。

○佐藤真琴委員 親がいる。

では、Iターンとかでもいいですよ。

○西田商工政策課主任 Iターンだったら知り合いがいるとかですか。

○佐藤真琴委員 人のつながりですか。と思うと何だと思いますか。そういう人が帰ってくるときに、例えば豊川市ではなくて新城市を選ぶ理由。

○天野勇治委員 この前の横浜ゴムのみんな家を建てると豊川市へ行ってしまおうという話を聞いて、やはり、でもそうかもしれないなと思ってしまうものね。

○佐藤真琴委員 それは何ですか。

○天野勇治委員 利便性かな。

○佐藤真琴委員 では、新城市には利便性が、豊川市と比べると若干落ちる。

○西紋賢嗣委員 若干。大分。分からないけ

れども。

○佐藤真琴委員 ここで、狭い範囲で、愛知のこのエリア、三河というエリアで豊川市と例えば新城市を比べるとそうかもしれないのですけれども、Iターンの方は、究極、ここと四万十だと思うのです、比べるものが。でもそのぐらいの感覚だと思うのです、Iターンの人たちは。出元がない人たち。

確かに豊川市とこうやって比べると、同じぐらいの感じで豊川市の方が暮らしやすいなと思われてしまうかもしれないのですけれども、この新城市の魅力を考えるときに余り近くと比べなくてもいいかなと私は思うのですけれども。

○天野勇治委員 僕もそう思うのですけれども、でも、働いている人はそうやって思うのです。

○佐藤真琴委員 多分、ここにいるとここからの目なのです。ここから見たときに外と比べてしまうのですけれども、私なんかかなり外なので、かなり外から見ると、何か四万十とか香川とかかなり近いなとか思うのですけれども。静岡だと天竜とかは結構近いなと思うのです、感覚的に。

今おっしゃった地縁の、知り合いがいるというような感覚は、結構Uターンの方の感覚だと思うのです。

○天野勇治委員 農業をやっている、農業の中でもいろいろな職種がありますよね。

○佐藤真琴委員 はい。

○天野勇治委員 いい意味で同じ業種の人たちではなくて、変な話、農業でも全く違うことをやっていると異業種になるのです。

○佐藤真琴委員 それはトマトとピーマンみたいな感じ、そういう感じ。

○天野勇治委員 そう、そう、言ってみれば。

そういう面のところというものはすごくいいと思うのです。産業として考えると。

そういう面では、例えば、石田君とか僕とも話をするし、だから、その辺がもう少し、

ある程度、作手の中は農業しかないからそういう話ができるのだけれども、先ほどの新城市のそういう他の産業の交流がないというのは、やはりそれはあるのかなという感じがします。

○佐藤真琴委員 産業交流は薄いのですかね。

○天野勇治委員 どうでしょう。僕もよく新城市のことは分からないですけれども。

○佐藤真琴委員 どうなのですか。産業交流は薄いのですか。

○西紋賢嗣委員 やっていることが全然違うといえば全然違うので、難しいのだろうと思いますけれども。

○佐藤真琴委員 ここは企業から見ると生産拠点、開発拠点。

○西紋賢嗣委員 生産です。

○佐藤真琴委員 生産拠点で、開発していくとするとあれですよ、生産工程の工場とか、そういう現場改善の手法の、そういうものはあるけれども、何かすごいゴムの開発とか、そういうものはちょっと、中央研究所になりますよね。

○西紋賢嗣委員 別のところですよ、はい。

○佐藤真琴委員 そうなのですよ。

ちょうど今、農業の、あったではないですか、異業種交流の話。

○天野勇治委員 今、逆にそれを農協に僕も言っているのですけれども、農家さん同士は意外に、話をする人はつき合いがあるけれども、もっといろいろな人を集めて、その地区に住む人をもっと集めて、そういう交流会をやれば良いという話はしているのだけれども、ちょっと戻ってしまうけれども、作手は加藤君が先ほど言ってくれたのですけれども、作手は多分やるのがもう決まっていますと思うのです。大きく、新城市に来ると僕も産業が分からないですけれども、作手だと、人口が減るのだから、いかに最低限の人が残ってくれるかだけを考えれば良いと思うしかないと思うのです。

○佐藤真琴委員 減少のスピードを減らしていくと、緩やかに少なくなっていく、少なくなるスピードが。

○天野勇治委員 いや、もうぐんと減ると思うのです。

○佐藤真琴委員 ぐんと減るのですね。

○天野勇治委員 でも、減ったところで安定すればいいと思っているのです。でも、それはしようがないと思うのです。

○佐藤真琴委員 減るのはもうしようがない。

○天野勇治委員 しようがないと思うのです。やはり年齢の、年配者が亡くなって。だけれども、石田君とかそういう新規の人。あとは先ほど言った地元の農業をやっている僕たちの子供たちができる環境を作ってあげればプラスアルファになりますよね。

だから、ずっと話を聞いていて、僕、作手は特にやはり農業だと思うと、エリアで考えていくと、もう何をやるかという、多分決まっていると思うのです。そうすると、この前言った住宅地がないとか、そういう話で何となくすすつと来るのだけれども、ほかの鳳来であるとか新城であるとか、すごくその問題はもっとやはりくっつと絞っていかないと、すごくばらけてしまうような気がしてしまって、そこがやはりどこに焦点を絞るかということがやはり。

○西紋賢嗣委員 何か冒頭で言われた、人口を増やすのだというふうにおっしゃったのですけれども、それを目的にしている割には、これがこうなのかなということがすごく。

これで人口が増えるのかなと僕は思って、でも、今おっしゃっていたように減ることが前提だというのだと、何かこうなのかなという気もしなくもないのですけれども。

増やしたいなら増やすと書いた方がいいのではないですかと、一瞬。

○佐藤真琴委員 横浜市だとかこういう感じが良いのですよね。

○西紋賢嗣委員 そうかもしれないですけれ

ども、何か。

○加藤商工政策課長 正直なところ、天野さんが言われたように、こういう人口の、この部分がいなくなったらこう行くのです。こう行ってここがなくなった、この部分を維持するということが。

○佐藤真琴委員 人口の取り合いになるのですよね。これはどこも同じことを言って、この地域も同じことを言っているんで、人口の取り合いになるので、増やすことは難しいと。でも、私もちょっと同じことを感じていたのですけれども、皆さんはどうか分からないのですけれども、課題の感じと目標値が結びついていないのです。ですので具体策もすくばらばらな感じが、若干、私はそういう印象があるのですけれども。

ちょっとそろそろ時間なので、ぱっといろいろ聞きたいこととか皆さんの質問で来たのです。

○西紋賢嗣委員 真ん中で、先ほど折り返しで各戦略があるではないですか、こうは見ていると思うのですけれども、この方向から見えていますね。これをすればこうなる。あと、それぞれのつながりみたいなことで。

○佐藤真琴委員 何かポンチ絵で描くと、多分、あちらこちら行かないですよね。

○西紋賢嗣委員 その辺がちょっと、何かストーリーがあるのではないかなという気もするのです。先ほどおっしゃっていただいた、例えば、何かイベントをしますと、見てもらう人が増えますと、それによって新城市に触れる人が増えますと、それでここに住みたいと思う人が例えば10%ぐらいいるとするとそういう人が入ってきますとか、何かそういう、それぞれがぱっぱとあるのではなくて、何かつながるようなものがあるのではないかなという気が、何となく。

○加藤商工政策課長 西紋さんが言われていることは非常によく分かります。それをもっとストレートに、具体的に、このようなこと

をやってみたらどうだ、あんなことをやってみたらどうだということをこの場でもばんばん言ってくれたらいいのですけれども。

○佐藤真琴委員 でも、言いたいのですけれども、結局、何に向かっているかのゴール像が全くないのです。だから、あるべき新城市という像が何かすごくもやっとしているので分からないのです。戦略を持たせられないので。

○加藤商工政策課長 今、作り方がまさにそういう、もやっとした感じにしてあるのです。

○佐藤真琴委員 それは誰が決めるのですか。ビジョンを決めるリーダーは誰ですか。市長ですか。

○加藤商工政策課長 答申をいただいて。

○天野勇治委員 僕、作手に住んでいて、この課題3の個人所得の市外流出なんか、作手に住んでいると、あつて当然だよなと思ってしまうのです。

○佐藤真琴委員 使うところがないということ、買い物ができないとかですか。

○天野勇治委員 いや、やはりそのときぐらいはまちに出て買い物をしたいと思ってしまうのです。

○加藤商工政策課長 西紋さんはどこでしたか、豊川でしたか。

○西紋賢嗣委員 いや、いや、新城市のピアゴの近くの、うちの社宅にも。

○加藤商工政策課長 そうか、そうか。あの社宅ですよ。

○西紋賢嗣委員 はい。

○加藤商工政策課長 横浜ゴムは立派な社宅がありますよね。

○天野勇治委員 これを見ると、では新城市にも巨大ショッピングセンターの、例えばらぼ一とを持ってきましようとか、そういうことをしてくれたら、例えば、地元のを消費、そこで地産地消とかしない限り、なかなか地元で消費しないことはないですか。

何かすごく、特に。

○佐藤真琴委員 これですよね、戦略1の。
○天野勇治委員 山の中にいると、そんなときぐらいはと思ってしまっただけ。
○佐藤真琴委員 アマゾンで買い物をしてしまおうと思います、私だったら。
○天野勇治委員 意外にそういうレベルは、コープぐらいで終わってしまうのです、やはり。
○佐藤真琴委員 これがすごく難しいなと思うのです。だって使うところがないし。
○天野勇治委員 生活のある程度の食べる物とかそういうものの毎日買うものなんかはどこかで買うのだからけれども、でもやはり、これを見て。
○佐藤真琴委員 使う楽しみも欲しいということですか。
○天野勇治委員 そうですね、やはり。ただ、住む良さがあればそこに住むわけでしょう。ということは、所得はそこそこあって。だって、遊びに行くのは、みんな、例えば、豊川市に住んでいる人が豊川市で遊ぶばかりではないですよ。住むにはいいかもしれないけれども、でも。
○佐藤真琴委員 豊川市の人には豊川市で消費するのですか。
○天野勇治委員 そんなことはないと思いますよ。
○佐藤真琴委員 名古屋とかで消費するのではないですか。豊橋市とか。
○天野勇治委員 僕もわからないけれども、でも豊川市。
○佐藤真琴委員 どうなのでしょう、ちょっと仮説なので全然分かりませんが、でも。
○加藤商工政策課長 名古屋ですよ。名古屋は多いですよ。きっと豊川からだ。若い子たちは名鉄で。
○佐藤真琴委員 この地域循環というレベルはどのぐらいの意味なのですか。イメージなのですか。この5つの戦略の地域内での経済

循環というものの。
○加藤商工政策課長 完全に市内です。
○西紋賢嗣委員 同じ土俵で戦っても無理です、多分。
○加藤商工政策課長 なので、この地域内とは、あなたは市内で考えているの。
○佐藤真琴委員 これは。
○西紋賢嗣委員 使うものでも稼ぐということ考えた方がいいような気がします。
○佐藤真琴委員 だと思えますけれども。
○西紋賢嗣委員 何かよそにはないものを。
○天野勇治委員 変な話、循環させるならそういう新しいものをよその人に買ってもらうような形の方が何か消費は。
○西紋賢嗣委員 出ていってもいいけれど、戻ってくる。
○佐藤真琴委員 とにかく稼ぐから、使うのも使うみたい。
○天野勇治委員 自分たちはよそのものを買っているけれども、よそから来た人は地元のものを買わせるぞというような方が何かいいような気がするのだけれども。
○佐藤真琴委員 多分、食べ物とかは、これ、すごく可能だと思うのです。
○天野勇治委員 食べ物はね。そうではなくて何か。
○佐藤真琴委員 消費といわれるものですよ。
○天野勇治委員 うん。
○佐藤真琴委員 例えば服を買うとか、ただ遊びに行くとか、そういったものを、お金を使う楽しみというところになると、やはり外貨を落として払いたくなってしまうから。
○西紋賢嗣委員 それはよそに任せて。
○佐藤真琴委員 そうやって思うと、あともう一個、ちょっと話した方がいいなと思ったことが、この新都市の魅力ある、と言っているのですけれども、これ、自分たちが魅力あると言っているのか、きちんとマーケティングをしてどの人たちにとってどういう魅力あ

るものが何なのかという分析をしたことは、
どうなのですか。

例えばこれで、企業人なので、マーケティングのディレクターにこれを出したらぶん殴られますよね。

○西紋賢嗣委員 僕もすごく思ったことは、出ていっている人と帰ってきている人の何かアンケートをとったとか、そういうものでなぜ戻ってきたのかとか、なぜ出ていったのかというようなデータみたいなものはあるのかなとすごく気にはなったので。

○佐藤真琴委員 お客様ですよ。普通に一般の企業で見ると、お客様のリアルな調査というものは。

○加藤商工政策課長 そういうものはないのです。

○佐藤真琴委員 とりまでしょうか。18歳の人とかをひもづけしていないのですか。

○西紋賢嗣委員 分かるといいですね。なぜですかと。

○佐藤真琴委員 今ならグーグルフォームみたいなもので、10分ぐらいで答えられるようなものにしてしまえば。そういうものの、これ、施策を作るときに、ここにいるメンバーの人たちは、多分、住んでいる中でもある程度市に愛着があって何とかしたいと思っているから、参加、協議してくれる人たちなのです。でも、こういう人たちは、新城市の中で恐らく数%しかいないはず。ほかの人たちは市民か住民かといったら、ひょっとしたら、多分、住民なのです。その住民の人たちこそ満足度を上げていかないと、やはり難しいですよ、今の目標達成。

その住民の人たちが出ていってしまう、どうしようとなったときに、この魅力というのがどう設定されているのかがよく分からないので、具体的にどうしたらいいか、何を売ってきたらいいか分からないですよ。魅力あると言ったときに、自然が魅力ですと言ったときに、その情報だけで営業マンとして外

に売りに行けるかといったら、なかなかちょっとこれを売ることはやはり難しいところはあるかもしれない。

○西紋賢嗣委員 外から入ってきている人はわかるのですよ、少なくとも。

○佐藤真琴委員 流入者ですか。

○加藤商工政策課長 わかりますよね。

○西紋賢嗣委員 そうですよ。

○加藤商工政策課長 はい。

○西紋賢嗣委員 そこで戻ってきた人、戻ってきたというか要は流入してきた人が何でここに来たのかというものがはっきりしてくると、それが魅力なのでしょうね、多分、きっと。分からないですけれども。

僕みたいに転勤で来ましたという人もいるかもしれないですけれども。

○佐藤真琴委員 でも、転勤で来てみたらこうでしたというのもそっちになりますよね。

○西紋賢嗣委員 でも、そこでうちの従業員で転勤で来た人で、奥さんがここを気に入って住んでいる人もいます。家を建てた人もいます。だから、何かそういう人たちがどこに魅力を感じたかというものをリサーチした方が多分、いいような気がします。

○佐藤真琴委員 そうですね。住民の住んでいく満足度をやはり上げなければいけないという話が、帰ってきたら住みにくいということはすごく問題なので、住民の満足度を上げるには、外から来た人にもやはりちょっと聞いてみたいですよ。

もともと住んでいた方のコメントもすごく重要なのですけれども、やはり流入者を増やそうと思ったら、流入者の視点で考えてみた方がいいのですかね。

○加藤商工政策課長 そうですね。

○佐藤真琴委員 また何か地域が違うと多分違うと思うのですけれども、私も新城市を余りよく分かっていないので非常に恐縮なのですけれども、ずっと作手は違うとおっしゃっているではないですか。

○天野勇治委員 政策が。

○佐藤真琴委員 政策というか何かニーズがちよっと違うという話を、新城の鳳来とかとはちよっと感じが違うという話をずっとおっしゃっているのですけれども。

○天野勇治委員 エリア的にもね。

○佐藤真琴委員 エリア的にちよっと違うとおっしゃっているのですけれども、それ、何か特区みたいな感じで、作手のための何とかとかあった方がいいと思いますか。新城市全体でやっても。

○天野勇治委員 とにかくやるなら農業で、農業のことをとりあえず試しに作手でこういうことをやって。作手はもう農業だけでいいの、とりあえず。

○佐藤真琴委員 作手は農業先進何とかだみたいな、農業に特化して。

○天野勇治委員 新城市の中の農業の政策は作手でという方が多分ははっきりすると思うのですけれども。

特に今なんか新規就農の方とか、具体的な話になってしまうかもしれないけれども、農協にも提案として言っていますが、応募者はいるのに受け入れきれないみたいなどころではなくて、1つの会社を作ってしまう。そして従業員になってもらう。そして独立していくような人はさせるとか。

だから、農業に関して作手の中で試すと言ったらおかしいのですが、分からないけれども、少なくとも今よりは人口も増えるだろうし所得も増えるのではないかなという予感はするのですけれども。

○佐藤真琴委員 それはすごく分かり易いですね。新規就農の人は基本的に農業をやったことがない人が新規就農で来られる訳ですからね。

○天野勇治委員 だから、100人来て10人独立するだけでもいいと思います。あと90人、従業員で残っていても30人になってしまってもいいと思うのです。毎年どんどん

入れてやって。多分、やりたい人は意外にいると思うのです。ただ、お金がなくて独立しない、できない人はやはり、起業家でも一緒だけれども、経験もないから。今、国の事業とかすごくお金の補助金があったりそういうものがあるから、ばんばん受け入れて、ばんばんふるいにかける。

石田君とも先ほどしゃべったのだけれども、やはり作手で仕事をすると、本当は住みたいけれども。やはり新城から通わなければいけないという問題が絶対に出てくるから。やり出したら絶対に作手に住むと思うのです。どれだけ不便でも。そのかわり週に1回、例えば焼き肉に行こうとかいう発想になってしまう。この中のいろいろな施策が出ると思うのだけれども、農業に関してだけ、ぐっと絞り出してやっていくならぜひ。他のところは、例えば観光は鳳来とか、新城はいろいろあると思うのですけれども。

○澤上花子委員 作手は若い人がすごく頑張っていますよね。鈴木製茶さんのお茶屋さんとか生田さんとか、若手の人たちが本当にそこを盛り上げようとすごく頑張っていると思うから、何か若い人がその気になるような。何かそういうシステム。

○佐藤真琴委員 若手育ての何かいい上司みたいな人がいると多分育つのですよね。20代なんかだと。

○澤上花子委員 そこをすごく盛り上げてくれるようなものが、作手もそういうものがあるのかなと思ったり。

○天野勇治委員 でもまだ、農協でもなくて市役所でもないのです。土台だけはこうやって作ってくれるのだけれども、その一個上に行くともっと良くなるのではないかな。

○澤上花子委員 今日もたまたままちづくりの方が来てくれて、やはりコミュニティということで、まちの人たちが、まずは行きたくない、外ではなくて。

○佐藤真琴委員 まずはそこに住む人がその

まちのために、家から自分の普段のコミュニティから出るという感じですか。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 ちょっと近いところで今おっしゃってくださったものと、コミュニティベースも近いのですけれども、モスバーガーのレタスを作っている鈴生（すずなり）さんという会社があるのです。モスフードサービスというところと提携しているのですけれども、レタス屋さんで株式会社なのです。もともとは家族経営の農家なのですけれども、その、今、何代目かの若社長が、同じことをおっしゃっていて、新規就農で来る人たちが何で来ないのかというと、お金がないのです。お金がないことと農業で本当に食えるのか分からない。もともとやっていた人は市場に出すとこのぐらいとか、お客さんがいてこのぐらいとか、例えば、具体的に言うと、ピアゴに出してこのぐらいとかいうことがある訳です。このことが分からないから、では、と言って、営業をばんばんかけてきて、この畑を丸ごと、ここで買ってもらうとかいうことをやりながらばんばん新人を入れるのです。そして3年ぐらいで独立していくのです、みんな食べていけるから。レタスはめちゃくちゃ忙しくて、朝4時から収穫するらしいのでヘッドライトをつけながら。だから、すごく厳しいけれども。ヘッドライトをつけながら。でも、やはりきちんと食えるし、午後フリーだったりして、向く人はすごく向くのです。そして育っていく、住む。でも、だめな人もやはりいて。

○天野勇治委員 いる、絶対にいる。

○佐藤真琴委員 絶対にいるのです。

○天野勇治委員 うん。

○佐藤真琴委員 それで、やってみてだめな人はいなくなるけれども、その鈴生（すずなり）の社長が言っていたことは、本当におっしゃるとおりで、1割残ればいいと。1割残って、そうしたら、1割ぐらいはやめる人も

いるから、年齢とともにとか、そうすると、多分やっていけるからといって、それをやるためにいろいろIOTとか活用して、監視システムとか草むしりのシステムを作っているのですけれども。

○天野勇治委員 その中で多分、奥さんでやらない人が何かそういうものをやりたいとか言って、そういうものが出てくる可能性があると思うのです。

○加藤商工政策課長 今度プロジェクトに入っているよな、これ。

○西田商工政策課主任 はい。

○加藤商工政策課長 それをそっくりそのまま言っておけばいい。そういうふうにしてある。

○佐藤真琴委員 鈴生（すずなり）さん、私、ニュービジネス協議会のニュービジネス大賞というものがあって、そのとき、鈴生（すずなり）さんが大賞で、その2位をもらったときに結構よくしてもらって、同じ年ぐらいです、社長。それよりさらに若い人を入れているのです。20代とか30代とか。でも、リタイアした就農の人も来るのですけれども、レタスだったらできるのですって、重くないから。レタスはかさがすごいですけれども。あと、特殊技術を持っていて、レタスは大きいほどもうかるのですって、モスのレタスというものは。なので、それをきちんと大きく虫がつかないように作るという、そのシステムまできちんと持って、年収ベースで1,000万円ぐらいになるそうで。

○加藤商工政策課長 天野さんの半分ぐらいじゃないですか。

○佐藤真琴委員 3分の1ぐらいですよ。でも、そこで消費していないのです。地域消費ではないのです。だから、やはり稼いできちんと回していくということがおっしゃるとおりですよ。

○澤上花子委員 そうやっていると色々なアイデアがあっても、そこからなかなか自分の

中でも、これが商品になってもっと大量に生産出来たらもっといろいろな場所に置いてとかいろいろ考えるけれども、そこまで自分にまだ力が全然なくて、でも何かこれは絶対商品になるといいねと言ってくれる人もいっぱい、もっと置けるといいねと言ってくれるのに、そこで出来ないもどかしい自分がいたりとか、そこでもし作るようになれば、本当に人を雇って、手の空いている子もいるので、たくさん、そういう子を一緒にそこで仕事が出来ると、その子たちも収入になって。いろいろ考えるけれども、そこで止まってしまっている、正直、そういうことはある。

○佐藤真琴委員 今、澤上さんがおっしゃっていることは、5つの戦略の中だと多分2番の課題になっていて、農業を法人化して人を雇うという大きさのものへの支援と、多分、そのお母さんたちが空き時間にちょっとずつやりながら、ワークシェアをしながらやっていくという仕組みは、大きさも違うしやり方も違うので、施策を分けないといけないのです。ですので、その辺はちょっと、この五つの戦略のこの2つ目とかを違うものとして捉えないと難しいのではないかなと感じるのですけれども、どうですか。

具体的に産業間連携もそうなると同じような話で、例えばゴムのタイヤと、タイヤメーカーと大学が産学連携することと、農家とつくり手で連携して新しいビスケットをつくることだと、やはり同じ支援ではだめではないですか。

もちろんこのプレゼンテーションだけだと全然出てこないのですけれども、最初の話で皆さんでフリーディスカッションをしたときに、特に農業だと農協に新しいコラボが生まれるかもというような話も出ているという話もあったではないですか。それは具体的に次のステップに行くには、ちょっと何か足りないのではないかなと思うのですけれども。今、それが無いような気がするのですけれども。

例えば、規格外トマトをペーストにしてビスケットにして焼きますとかいうと、物づくりのところの支援は物すごくあるのですけれども、それは本当に市場ニーズに合っているかという調査研究費みたいなものは余り使われていないような気がするのです。

○天野勇治委員 その辺が農協も弱いところ。

○佐藤真琴委員 なので、いっぱい作るのではないですか、みんな。でも、何とかカレーなんて一時期すごくあったではないですか。カレーとか作り易いから、レトルト。でも、結局売れないのですよね。

○天野勇治委員 だから、今はまだ農業の状況がいいからやっていないかもしれないし、僕の周りの農家の方たちの所得が。だけど、やはりあれを持ってくると、先ほどの話で、地域の名前も売れるしすごくいいPRになるから本当はやるべきだと思うのですけれども。

○佐藤真琴委員 世界に向けていくとなるとちょっと難しいけれども、新城市の周りで。

○天野勇治委員 名古屋に向ければいいのです。

○佐藤真琴委員 そう、名古屋に向けて、例えば、どこでしたかね。ちょっと私、名前を忘れてしまいましたけれども、どこかで農業のマルシェをやっていて、駅前でマルシェをやっているのですけれども、結構、それこそ一宮とか幸田とか、あの辺の人とかも結構は行っては売るのですけれども。

○天野勇治委員 高島屋で何かやっているらしいです。何かブースだけ貸して。

○佐藤真琴委員 高島屋とかもやっていますね。私の友人もイチジク農家なのですけれども、1箱5,000円のイチジクがあつという間に売れてしまうと。すごくおいしいブランドイチジクなのですけれども。

ですので、ものを作ることとか楽しいではないですか。企画も楽しいではないですか。でも、一番大事なことは売りに行くところではないですか。売って、売れて、継続的に売

れていく。その辺の戦略というものはもう少しあった方がいいかなと、これは私の個人的意見ですけれども、というふうに思うのですけれども、その辺はどうですか。何か戦略的に地域の力を生かすと書いてあるのですけれども。

○西紋賢嗣委員 結局、多分おっしゃるとおりで、もうからないと続かないので。

○佐藤真琴委員 そうなのですよ。どこに売れるかという仮説がもうちょっと。その戦略の中に入らないのです。敵を知るところが全くない。市場を知るとか。

○加藤商工政策課長 まだこの書き方というか、このプレゼンの資料ですけれども、何か昔ながらの行政っぽいですよ。

○佐藤真琴委員 誰ですか、作っているのは。

○加藤商工政策課長 ちょっとまだ攻め足りない。

○佐藤真琴委員 そうなのです。誰に向かって何を売るとかということが全然分からないので。

○加藤商工政策課長 先ほど西紋さんが言われたようなそもそもストーリー性のようなものが何か。

○天野勇治委員 新城市でなくても使えそうですものね。

○佐藤真琴委員 そう、そう。そのままいけます。

○天野勇治委員 極端に言うとな。それで最初に僕は質問したのだけれども。

○加藤商工政策課長 最初に言ったように、まだぼやっとさせてあるので。今日言っていたので、そういうものに肉づけしてくる、はっきりしたものが。西田君が作ったらもっと尖ってくるものね。

○天野勇治委員 尖ってきた方がいろいろ出ると思うのです、何か。具体的に書いてくれると、例えば。

○佐藤真琴委員 具体的にこの産業間連携の話とかは、話してくれるのか分からないので

すけれども、いろいろな企業の戦略室とかに話を聞きに行く、個人的に。いろいろなことをやっているの、おもしろい。

○天野勇治委員 ここの下にこういうことと書いてくれると、何かうん、とか思うのだけれども、これだけ見るとどのぐらいのレベルの連携なのかなと、その後を書いてくれるとすごく話がもっとし易いかもしれない。すごくそれは思う。

○佐藤真琴委員 そう、そう。全部同じになってしまっているのです。だから農業に対する話も。

○澤上花子委員 生の声を、無理やりではなくて現場に行って、本当に主婦に話を聞くとか、本当に小さなものが、何が大きくなるか分からないから、本当に。だから、そこら辺を何か場所が。

○佐藤真琴委員 それを自分で聞きに行くことも1つなのですけれども、結構大変なので、何か各々のセグメントのリーダーというか情報通みたいな人のネットワークがあるですよ。起業家ネットワークの、今のこの新城市の起業家ネットワークのトレンドをよく知っている人とか、農業のここの地域の農業のトレンドをよく知っている人とか、産業のトレンドをよく知っている人とか。

○澤上花子委員 何か今、フェイスブックでもそうだけれども、本当にやっている人は、自分のアピールをいっぱいしている人が多分いると思うから、何かそういうところを聞いても、新城市の中でも結構いると思うから、そういう人をちょっと当たってみるとか、一応探してみるとか。

○佐藤真琴委員 ということは、そもそもこの5つの戦略がなるいぞ、ぼやっとしているということなのですね。

○澤上花子委員 頑張っている人は本当に頑張っているから、人の手を借りずに、助けを借りずに。

○佐藤真琴委員 勝手にやれる人は勝手にや

れてしまうのですよね。

○澤上花子委員 そう、やっていると思う。

○佐藤真琴委員 ちょっと話をもうちょっと戻して、この3つの基本方針について、ちょっと時間的にも最後なので、検討したいのですけれども、そもそもこの3つの基本方針というのは、これで何か方向性にはいいのですか。

○鈴木誠協議会長 そろそろまとめてもらって、きょうのまとめをお願いします。

○佐藤真琴委員 はい。

そろそろお願いいたします。地域産業の発見と支援、今あるものを見つけ出して、新しいものを作って、それによって地域をつくっていくという基本方針なのです。

○西田商工政策課主任 はい。

○佐藤真琴委員 という方針なのですけれども。

○西田商工政策課主任 今あるものも、しっかりと持続可能なような形で支援しながら、ただ、それだけではだめなので、戦略でいう産業間連携だとか人材育成によって新しい産業を創出しないかだとか、ということも探りながら。ただ、もっとその産業で、最初のビジョンでも話したとおり、産業でも地域をつくっていくということがこれから必要だと。ここが自分では新城市らしさなのかなと思ったのですけれども、産業がどんどんと入ってくることを謳うところが。

○佐藤真琴委員 らしさというものがどちらかという、この場合は産業に軸がある。新城市らしさの定義というものが。

○西田商工政策課主任 ここは、そうですね。

○佐藤真琴委員 私は気になる。ないような気がするのですけれども、新城市らしさの定義は。

○西田商工政策課主任 僕はその新城市らしさというものに、この新城市の生活らしさという意味の新城市らしさだったので。

○佐藤真琴委員 なるほど。

○西田商工政策課主任 新城市はこうやって地域づくりに産業もしっかり入っているのだよ、ということが新城市らしさになっていきなというものがあるのですけれども。

○佐藤真琴委員 らしさの1つの軸として、産業というものもあるということですよ。

もっとありますものね。自然とかも。

どうですか、この3つの基本方針。そもそもこれでいいのかという。方向性は何となく大丈夫なのですか。

何かみんな納得しないということがすごく問題ですね。

○天野勇治委員 新城市の地域の産業というものは、今のことを言っているのだよね。

○加藤商工政策課長 もあれば。

○天野勇治委員 全てを。

○加藤商工政策課長 今あるものは振興していくように。そして新たなものは創出とかしっていくと。

○天野勇治委員 新たなものは分かるよね。

○加藤商工政策課長 これで全てを何とかしようという形になっています。

ただ、どちらかという、新たなものを創出するという方が割合的にはちょっと多い感じに見えるかなというところです。

○天野勇治委員 そちらの方を強化したほうがいような気がしてしまう。

○澤上花子委員 今あるもの。

○加藤商工政策課長 は振興するように。

○天野勇治委員 それはそのままある程度頑張ってくださいねと。

○加藤商工政策課長 盛り上がっていくように支援はしていくけれども、ということですか。

○天野勇治委員 そう、そう。何かそちらは。

○佐藤真琴委員 新しいものもやはりチャレンジをして。だって勝率5割で、4つやってみて2つ当たればいいわけですよのね。究極は。

○天野勇治委員 だって、地域産業は、では

新都市の地域産業は何ですかと言われたときに、出ないでしょう。

○佐藤真琴委員 私もよく分からない。

○天野勇治委員 だから、僕は地域産業をつくらぬような形の方が。

○加藤商工政策課長 自動車関連製造業。

○西紋賢嗣委員 それは多いですね。そこそこ。

○佐藤真琴委員 それは税収ベースからではないですか。

○加藤商工政策課長 いや、そうなるってしまうのですよ。

○佐藤真琴委員 なるほど。中から見ると。

○加藤商工政策課長 うん、そう。

○西紋賢嗣委員 でも、分からないですけれども、キーワードは市民の力をもらいながらとなっているのですけれども、これは市民が望んでいる。

○佐藤真琴委員 うん、そもそも。

○西紋賢嗣委員 でも、望んでいなかったら協力を得られないとか。

○加藤商工政策課長 そう言われた段階ですらですねという話になってしまう。

○西田商工政策課主任 そうですね。市民が何を望んでいるかというところから話が始まっている。

○佐藤真琴委員 市民と協働と言った時点で、何か行政の都合、コストがかかってしまうから市民の皆さん一緒にやってくださいみたいな、市民にとって、公共にとって都合のいい、役所にとって都合のいい協働だったらやはり広がらないし、本当に市民の一人一人がそれは一緒にやっていくと自分たちもおもしろいし、自分たちも10年後、いいよねとなればいい。なってきますよね。

○澤上花子委員 旧作手村でパウダーを作っている、そういうものに一緒に話を聞いたりとかすると、本当にそれが今後何か本当につながっていく、物づくりをしている中でつながっていくかなと思ったりとか。

○西紋賢嗣委員 例えば、自然と言っていて工場がぼんぼん建ちましたと、何か違和感があるなど。

○佐藤真琴委員 おかしい、何か一貫性がないみたいなの。

最初におっしゃったストーリーがないということですね。

○加藤商工政策課長 そうなのですね。

最初に条例を作っているときなんか、市民は積極的に市内で物を買いますみたいな話をしていましたよね。

○西紋賢嗣委員 私、条例のときは多分出ていないのです。

○加藤商工政策課長 そうか、そうか。そういう話をしていたのです。もうそれぐらいの。

○佐藤真琴委員 買わないでしょう。

○加藤商工政策課長 積極的に市内の物を買いましょうという話が出てきて、梅津さんだ、そんな話を出したら、こんなもの、すごく苦情が来るだろうと、条例の中で市内の人は市内の物を買いましょうと。

○鈴木誠協議会長 では、論点をちょっと整理していただいて。

○佐藤真琴委員 資金の循環が、はい。もう何か納得できないという時点で、ちょっと難しいのではないかなという。かといってその代替案があるわけでもないけれども。

○西紋賢嗣委員 最初におっしゃった名古屋市を目指しますか。それはないですか。

何か具体的にここぐらいの感じを目指したいなものはあるのですか。これはよく分らないですね。

○佐藤真琴委員 うまくいっている先事例は何かあるのですか。

もっとすごくいってしまっていますけれども、あそこはすごい。

○西田商工政策課主任 西栗倉とか。

○佐藤真琴委員 小規模多機能自治ですごくやっているところはどこでしたっけ。

○加藤商工政策課長 何をやっているところ。

○佐藤真琴委員 小規模多機能自治ですごくうまくいっているところ。雲南。

○西田商工政策課主任 ああ。

○佐藤真琴委員 例えば雲南なんかは、かなりきついですけれども、市民がめっちゃくちゃ乗ってきて、きちんとお金が回る形で市民協働が結構できていますけれども、やはりああいうモデルを目指すのか、ある程度ビジョンの仮説がないと、みんなに考えてくださいと言っても意見は出ないですよ、会議で。たたき台がないので。たたき台がないのに考えると言っても。

○加藤商工政策課長 そうですね。

○天野勇治委員 ここに何か戦略の考えというものを、例えばちょっとずつ書いてくれると。

○佐藤真琴委員 ここに戦略の具体策をですね。

○天野勇治委員 うん。こういうふうにするということで創出をつくるためにこんなことはどうですかと書いていただくと、もっと出るかもしれないかなと。こうやって、ずっと見るとなかなかちょっとね、だから一回、その辺のところを、思うところを。こういう出すものは別にしても、ここで話し合いをするところでは、よその雲南とかいうそういうところでもいいけれども、新城市ではこういうことをしたらどうかなという。

○加藤商工政策課長 そちら側からこのようなことをやったらどうだ、あんなことをやったらどうだということは出ないですか。

○佐藤真琴委員 出ないと思いますよ。それが出たら、それがもし出てお金になるのだったらみんな事業化していると思うのです、勝手に。

○加藤商工政策課長 それぞれの立場で。やれないけれども。

○佐藤真琴委員 言うことは出るかもしれないですけれども、例えば2時間の中の1時間のディスカッションで出すことは。

○加藤商工政策課長 そういう話ですよ。

○佐藤真琴委員 多分、ここ、今、すごく遠慮し合っちゃべっていますよ。1人の人がわっとならばべってしまうと全然議論が進まないから皆さん遠慮がちにしゃべっていて、というか、これ、今、多分、概論のディスカッションですずっと来ていて、各論の話だったらこれ1つだけでもワークショップをやればすぐ出ると思うのです。

○加藤商工政策課長 そうなんですよ。

○佐藤真琴委員 地域の人同士で話し過ぎてしまってもお互いの利益の話になってしまうこともあるので、そのメンバーの人選をしなければいけないです。

もう一個だけ、ちょっと私、すごく気になったことが、この産業間連携というものと、もやっとし過ぎてしまっていて、結局、交流とか連携とかは支援するプログラムはいっぱいあるけれども、どこもやはりうまくいっていないではないですか。

○西田商工政策課主任 はい。

○佐藤真琴委員 これは足し算だと絶対だめで、掛け算で新しい市場を。

(審議委員会に戻り、会長によるまとめ)

○鈴木誠協議会長 そうしたら、時間も来ましたので、それぞれのグループでいろいろな議論をしてもらったと思いますけれども、どのような観点とか、どのような意見があったのかちょっと紹介してもらって、詳しいことは、これ、テープにとってあったり、あるいは記録をとってありますので。

○鈴木誠協議会長 では、松本さんのほうからお願いできますか。

○松本吉生委員 こちらのチームで話したことなのですが、前回、こちらのテーブル、僕の方のテーブルでやっているときには、やはり目標とかビジョンが分かりづらいので、進むべき道をちょっと示した方がいいのでは

ないかというお話もあって、今回、こういった課題であったりとかビジョン、戦略、それに対する施策というものをお示しいただいたのだなということは理解できまして、基本的な内容についてもいいのではないかなと思ったのですが、目標・ビジョンのところというのは、我々、いろいろ回を重ねて、いろいろ議論をしているので、我々の中でも分っている部分は多いと思うのですけれども、それでもやはり一般の方々からすると、ちょっと分かりづらい部分もまだあるのではないかということで、目標・ビジョンというものは、もしかしたらもうちょっと平易な言葉の方がいいのかなと。

産業自治という言葉がキーワードだと思うのですけれども、産業自治と聞いて本当に理解できる方々というものがどのぐらいいるのかなということであると、もうちょっと分かりやすい表現を、例えば、「市民（ひと）が育て、共に地域をつくる」という言葉なのか、それともうちょっと分かり易い表現にするのかという話が少し出ました。

それとあと、いろいろな戦略だったり施策を打っていくのですけれども、やはり数値として見えないとうまくいったのかいかないのかというところがあるので、いろいろとやることについては数値としてできる限り把握しながら、途中経過を見ながら、いろいろまたうまくいっていることは伸ばして、ちょっとうまくいかなかったことは違うやり方、もしくはやめてしまうということも含めてPDC A管理ではないのですけれども、しっかり管理していくことが必要ではないかなという話がありました。

それとあと、施策については、いろいろな制約がある中で、今、行政の方が施策一覧のところを出していただいているのですけれども、もしかすると、いろいろな縛りの中で考えていただいている、まだまだちょっとこれからというお話ではありましたので、今回、

この中でお示しいただいたところだとは思いますが、もしかすると、そういったいろいろな縛りとか制約というものを外して考えなければならぬのかなと。それはもしかしたら予算というまず一番大切なお金の面かもしれないですし、例えば条例とか、法律まではいかないのですけれども、いろいろな規制というものを取っ払う。例えば、都市計画を全て取っ払うことはできないのですけれども、企業立地がしやすいような計画に変えるとか、もしくは家が、自宅が建てやすいような計画をたてるとか、そういうような施策というものも川下の方ばかりではなくて、もうちょっと川上のところから考えるといいのではないかなと。それは、当然、行政の方にいろいろお手伝いしていただきながら民間が頑張るのですけれども、民間は基本的に頑張っていない事業者、個人というものはいないと思います。みんな頑張っているいろいろ深く考えてやっていくので、そういった川下ではなくて、もうちょっと上の方からやっていただくと、民間が勝手に頑張るのではないかなというような話がありました。

それと、そういった中でどういったことが出来るかというところまではまだ議論が煮詰まらなかったのですけれども、新城市は農業であったり、観光であったり、商業であったり工業であったりとかということがあるので、例えば、何とか特区みたいな、そういった仕組みを行政の方に作っていただいて、その中で特区の許す範囲内で自由にやっていいよみたいなことができると、もしかしたら民間が自立的に産業自治をしながら動く仕組みができるのではないかなというような話になりました。

済みません、ちょっと余りまとまらず申し訳ないのですけれども、このような話でした。

以上です。

○鈴木誠協議会長 どうもありがとうございます。

では、佐藤さんのほう、よろしくお願ひします。

○佐藤真琴委員 それでは、こちらのチームでちょっと話した内容を簡単にまとめたいと思います。

2つ、最初に鈴木議長のほうから質問であった3つの課題でそもそもオーケーかどうかというところは、みんなオーケーですかと言った途端に悩んでしまうぐらいにちょっともやっとし過ぎていて、分からないので、もうちょっと具体的に詰めた方がいいのではないかということとは1つ出ました。

基本計画の戦略であるとか方針というものについても、少し戦略、具体的にこれはどうということなのかという分かり易い言葉で具体策が出ていないので、少しそういったものを盛り込んでいただくと議論ももう少ししやすかったのかなというふうに意見が出ています。

いろいろ話はあったのですけれども、細かい話から大きな話まであったので、幾つか主体的なところだけ出させていただくと、まず、この5つの戦略というものでいきますと、この経済循環に関しては、やはりお金は使いたい。ここで普段住んでいるのに、御飯を食べたり物を買ったりする、生活雑貨品を買ったりすることは地域循環でいいけれど、やはり普段は外でもお金を使いたいので、全ての経済をここで賄うという、そのような仮説よりは、きちんと稼いでお金も使うというふうにしていった方がいいのではないかという意見が1つ出ました。

産業支援とか育成については、この戦略2と3については、ちょっとおもしろかったことは、農業の作手の話なのですけれども、農業、新規就業をしたい人たち、何がハードルになっているかということ、やはりお金が、やりたいけれどお金がないとか、来ても受け入れがうまくいっていないという現状があるので、そこをちょっと法人化して新しく入ってくれる人を雇って、ある程度出来るようにな

ったら、自分で自立していく人もいるし、やめてしまう人もいるし、そこに残る人もいるし。何か最初の就農するときにお金をくれるのではなくて、仕組みとしてその人たちを育てるような仕組みにお金を投入するのはどうかという話が出ました。

産業間連携と地域連携については、出なかったのですけれども、この議論の中でもっと具体的に何かこういうことをしたらどうだ、ああいうことをしたらどうだというものが出ませんかという質問が加藤さんからあったのですけれども、これは議論がやはり出にくくて、みんなお互いに遠慮し合って議論してしまうので、これ自体が総論の話で、この施策はどうですかとか、この方向性はどうですかなので、非常に議論が曖昧に、議論自体もすぐ曖昧になってしまうと。だけど、例えば、この戦略の中の戦略1、地域内での経済循環というものを1つテーマにしてこういうことはできないだろうか、ああいうことはできないだろうかということを経営をよく知る人たちとワークショップ形式で、例えば、分科会みたいな形でやることでたたき台を出せばもうちょっと話し易いのではないかという意見も出ました。

ある程度仮説の目標がないと、それをたたくこともできないし、みんな意見もなかなか言いにくいので、ある程度仮説を出しながら話を進めていかないと、この議論はずっとこのまま平行線上で何となく行政の皆さんがつくってくださったものに対してみんな文句を言うという図式で終わってしまうような、ちょっと危機感もあります。

最後に、出ていく者は仕方ないけれども、入ってきたらここはとても暮らしやすい新城市というものがつくれたらいいのではないかなと1つビジョンは出ました。今、現状、新城市は確かに住むことはできるのではけれども、外に出て行って帰ってきた人が住みやすいとか、今いる人たちが住み続けやすいか

というと、生活の持続可能性は極めて低い、生活しにくいと。なので、この地域自体がすごく生活し易くなるということも1つ大事だし、1つの柱だし、それプラスアルファきちんと産業として稼いでいく力をつくるという別の柱で、2つの柱でこの議論を推し進めていった方がいいのではないかという意見がこっちでは出ました。

ちょっとまとまらないですけども、そのような意見でした。

でも、これから、分科会とかやっていくのですよね。

○鈴木誠協議会長 まさにそのやり方について、今ヒントを与えてくれたので、そういうやり方がいいのではないかと思います。

○佐藤真琴委員 何か皆さん、物すごい意見を持っていらっしゃるし、実際にこういうこと、ああいうことというものはあるのですけれども、結構、ニッチな、その自分の、やはりやっていらっしゃる活動の周りに近いので、ここで総論とともにやはり話すことはちょっと難しいのではないかなということが出ましたので御報告しておきます。

以上です。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

もうごもっともなところで、今日、実は5つの戦略というふうここに出されたものを、これ、何だろうと、実は見たときに自分も最初に思ってしまったのですけれども、実は議論の過程で、条例を一回よく読んでみようということをやったのです。条例の中の基本的な方向性、つまり条例を作ってどのようなことを新城市はしなければいけないのか、去年、調査をして、そしていろいろなヒアリングをして、アンケートをして、調査の中でそういうような、いろいろな場面、場面でやってくる中で、やはり新城市がすべきこと、あるいは目指すべきことというところを条例の中に書き込んだということは、そのところはどいう手順でやるかは別として、やるべき基

本的な方向なのだろうと、産業振興上やるべきことなのだろうと。

例えば、地域自治区は新城市で設けているのですけれども、僕はどうもその地域自治区の活かし方が新城市は下手だなというふうに思えてならないのです。

僕自身は十何年来、岐阜県の恵那の地域自治区のプロジェクトに関していて、今年10年目にして株式会社を作ったのです。その前に農事組合法人を作ろうとか、株式会社を去年の段階で2つ作ったのです。僕はちょっと立場上、出資は出来なかったのですけれども、出資していいよと、1口5万円で10口以上でやりましょうと、まずそこから始めていきましょうというような形で非常に具体的にやり遂げてきたのですけれども。新城市の場合は、例えば地域自治区というものをとって、何か親睦の会とか、あるいはみんなの行政の方が準備してくれた予算を上手に使っていくバネだとか、非常に奥ゆかしいところがあるのです。もっとがめつくなっていかなければいけないのではないかというふうに思われるのです。

新城市は、消滅可能性都市だ云々だという外からどうこう言われたのですけれども、果たしてそのことがどういうふうを受けとめられているのかについても共通のコンセンサスがないのではないかなと思えてならないところもあるのです。

ですので、今回、こうやって資料を用意して、きょうは厳しい意見をたくさん出してもらって、まさにそれが狙いでして、何もなかったら結局議論が散漫になるだけだと思うものですから、条例を振り返って、そしてこの間のこの協議会の議論を踏まえて、皆さんがおっしゃってきたことをずっと振り返ってみると、やはり目標があった方がいいだろうと。そして、その目標を達成するための計画を作るべきだろうと。

ただ、計画を作る場合でも、やはり条例と

の絡みの中で分野を作っておいた方がいいだろうと。では、そこに一体何を込めていくのだろうと。ただ、市民の皆さんに要求するばかりではなくて、行政はやはり市民の皆さんが何を言おうとやるべきこととしてはやはりきちんと明示する必要がある。

最後のところに書いてあるのはそれでして、皆さんがやるべきではないと言っても行政はこれをやります。それは1つの理由があって、これはやることだし、やれることだろうと。これは新城市のこれまでのまちづくりの1つの派生型、延長線上の中でやるべきことだと考えているからやる訳であって、さて、そうすると、市民の皆さんはどういうことをしないと新城市はヤバいかということをお今日は出してもらおうということが大きなテーマだったのです。

ただし、その具体的なことはすぐに出てこないで、1つは、その何をすべきかをめぐる論点とか観点とか、それから意見の出し方であるとか拾い集め方であるとか、そういうところをお今日は皆さんが随分ヒントを与えてくださったので、これから部会という形がいいのか、どういう方がいいのか、そして、ここに書いてあるように5つの戦略そのものを全部やるべきなのか、僕は平成30年というのは、もう明後日のような話ですから、5つは難しいのではないかと思います。そうすると、まず優先的にすべきことは何なのか、そのあたり、やはりターゲットを絞って、そして新城市でこういう市民の皆さんの意見を踏まえた計画というものをやはり急いで作っていく必要があるのかな、というふうに思えてなりませんでした。

要はこれから新城市で、今、いろいろな多面的な意見を出していますけれども、最も急いで力を込めてやっていかなければいけないことと、それから、それを行政がやるのか、それとも皆さんの中の誰かにやはりある程度費用も出してやってもらうのか、それとも専

門家を連れてくるのか、その辺、やるべきこととどまるのではなくて、どうやってやるのかということも含めて、次あたりではっきりとやはり示していく必要が今回の基本計画の中ではあるのではないかと、今日、皆さんの話を聞いていて非常に思いました。

ということで、今日は皆さんから次に向けてのヒントをもらいましたので、早速分析をして、そして皆さんにこういうことでいいのかというふうに問いかけをしますので、皆さんに投げたらそれに協力をぜひお願いしたいと思います。

欲張ったことはしませんけれども、確実にやらなければいけないことをはっきりさせて一緒にやっていきたいと思しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今日、こういうところで一応区切りにしまして、次に行きたいと思します。

○白井副課長兼商工政策係長 基本的にその他のところは具体的なものはございません。次の7月の終わりにこの協議会を設けるといことで、うちの課長のほうからお話があったかなというふうに思ひまして、また、日程の方を決まり次第というか早々に決めさせていただきますまして皆さんにお伝えしたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

○鈴木誠協議会長 それでは、今日第5回目はここまでで。

○河合恵元委員 今日が6月1日で、今度、次回は7月末ですよ。

○鈴木誠協議会長 そうですね。

○河合恵元委員 こんなに間が空いてしまつては、難しいと思うけれども。次に丸が打つてあるのかな。次に何か形にするということだけれども。

○佐藤真琴委員 何かこれだと契約がとれないですよ。会社だったら、きっと。

○松本吉生委員 確かに。

○鈴木誠協議会長 これ、僕はこういうふう
に読んだのです。ビジョン策定は7月末まで
にやらなければいけないと。だからその前ま
でに会を開いて、それでやりましょうという
ふうに思っていたので、ちょっと、今、白井
さんの説明と違ってはいますけれども。

ですから、これ、末にするのではなくて末
までにはつくり上げるぞということで、さあ
どうしましょうということですね。

○河合恵元委員 5月で1回飛んでいるから
ということだね、多分。

○加藤商工政策課長 作り上げてメールでや
りとりしながら皆さんとは頻繁に意見を交換
し合っ。皆さん、お忙しいでしょうからと
いう配慮なのですからけれども。

○河合恵元委員 6月末とか7月頭にもう一
回やるとかということは考えていないの。

○加藤商工政策課長 今のところはちょっと
考えていません。

○河合恵元委員 忙しいの。

○加藤商工政策課長 またお話を聞きに伺い
ます。

○河合恵元委員 個人の話はいいから。

○鈴木誠協議会長 では、そのところは、
今、前向きな意見をいただきましたので、や
らないということではなくて、むしろやる方
向も探るということで準備をしましょう。

○加藤商工政策課長 はい。

○鈴木誠協議会長 では加藤さん、よろしい
ですね。

○加藤商工政策課長 はい、結構です。

○鈴木誠協議会長 では、どうもありがとう
ございました。